

学校部活動改革検討に係るアンケート

調査結果

令和 5 年 1 月

学校改革推進課

－ 目 次 －

■ アンケート実施概要	9
■ I 中学生の運動・文化活動に関するアンケート	
問1 運動や文化に関わる活動をしていますか。	13
問2 所属している部活動は何ですか。	13
問3 所属している部活動の種目を教えてください。	14
問4 クラブ（スクール）ではなく、部活動に所属している理由を教えてください。	16
問5 所属しているクラブ（スクール）は何ですか。	17
問6 所属しているクラブ（スクール）で活動している種目を教えてください。	18
問7 部活動ではなくクラブ（スクール）で活動している理由を教えてください。	20
問8 部活動とクラブ（スクール）両方で活動している理由を教えてください。	21
問9 部活動やクラブ（スクール）での活動で、「もっとこうなったらいいのに」と思うことがあれば教えてください。	22
問10 部活動にもクラブ（スクール）にも所属していない理由を教えてください。	24
問11 問10の課題等が解消すれば、運動や文化に関する活動に参加してみたい（してみしてほしい）ですか。	25
問12 問11の種目を教えてください。	26
問13 お子さんの運動や文化活動について、中学生になったらどのようにしたいですか。（お子さんと一緒に考えて回答してください）	28
問14 その活動の内容は、どのようなものだと良いと思いますか。	29
問15 お子さんが所属しているクラブ（スクール）に、会費として定期的に支払っている費用負担額は、一月当たりどの程度ですか。	31
問16 お子さんが所属している部活動、クラブやスクールで、定期的に支払う部費や会費以外に、遠征費など不定期に発生する費用は、年間どの程度ですか。	32
問17 問9～問14でお答えいただいたような活動に参加する場合、毎月の会費としていくらまでの負担なら許容できますか。	33
■ II 小学生の運動・文化活動に関するアンケート	
問18 お子さんはクラブやスクール、習い事などで運動や文化に関わる活動をしていますか。	37
問19 お子さんが所属しているクラブやスクールは何ですか。	37
問20 お子さんが所属しているクラブやスクールの種目を教えてください。	38
■ III 小学校運動部活動の地域移行（社会体育化）に関するアンケート	
（小学校の対応状況について）	
問21 平成29年度から令和元年度にかけて、多くの小学校で運動部活動が地域に 移行（社会体育化）しましたが、当時の部活動の地域移行の対応について、あてはまるものを選んでください。（同時に文化部活動についてもあり方を見直した場合は該当するものを選んでください）	43

問22	部活動の地域への移行を検討するにあたって、指導者の確保や金銭面、施設管理等、課題に感じたことやよかったことなどを教えてください。	44
問23	地域への移行を検討するにあたり、地域との連絡調整において課題に感じたことやよかったことなどを教えてください。	45
問24	職員の働き方や学校運営上の変化について気づいたことを教えてください。	46
問25	子どもの様子について気づいたことを教えてください。	47
問26	保護者からの相談などの対応について気づいたことを教えてください。	48
問27	学校施設の使用割り振りや用具等の使用・管理について気づいたことを教えてください。	49
問28	その他、小学校部活動の地域移行に伴い、現在課題に感じていることや、小学校部活動のあり方についてお考えのことがあれば教えてください。	50

(各家庭の対応状況について)

問29	お子さんが小学生の時にサッカー部や吹奏楽部など、単一種目の部活動に参加していましたか。(総合運動部は除く)	51
問30	平成29年度から令和元年度にかけて、多くの小学校で部活動を地域での活動に移行しましたが、お子さんが小学校に在学している間に、参加していた部活動が地域の活動に移行しましたか。	51
問31	小学校部活動の地域移行によって、お子さんの活動の状況はどうなりましたか。	52
問32	部活動がなくなった後のお子さんについて、どのように感じましたか。	53

■ IV 小中学校教職員へのアンケート

問33	部活動を担当していますか(小学校は総合運動部を除く。)	57
問34	担当している部は何ですか。(小学校は総合運動部を除く。)	58
問35	担当している部の種目を教えてください。	59
問36	平日の部活動従事日数を教えてください。	62
問37	平日1日当たりの部活動従事時間を教えてください。	63
問38	平日の部活動従事業務で負担だと思う項目を教えてください。	64
問39	土日・祝日に部活動に従事することはありますか。	65
問40	土日・祝日1回の練習指導従事時間を教えてください。	66
問41	土日・祝日1回の練習試合や地域行事、合同練習会に要する平均時間を教えてください。	67
問42	土日・祝日1回の大会やコンクールの引率に要する平均時間を教えてください。	68
問43	土日・祝日の部活動従事業務で負担だと思う項目を教えてください。	69
問44	現在、文部科学省・スポーツ庁・文化庁で、中学校の部活動を学校単位の取組から地域単位の取組に移行することが検討されていることを知っていますか。	70
問45	国では土日の学校部活動を地域移行しようと検討していますが、熊本市では平日を含めて移行することも検討しています。学校部活動を地域での取組に移行するとしたら、どのようなメリットがあると思いますか。	71
問46	学校部活動を地域での取組に移行する場合、どのような課題があると思いますか。	72
問47	平日も含め部活動が地域に移行した場合、勤務時間外に兼職兼業が認められ、報酬が支払われる報酬が支払われるなら、地域移行後も指導したいと思いますか。	73
問48	部活動が地域移行して、平日も勤務時間外に従事した場合、報酬がいくら支給されれば指導してもよいと考えますか。	74
問49	地域部活動の指導者となった場合、課題となりそうなことはありますか。	75

■ アンケート実施概要

(1) アンケートの目的

本市においては、今年度から、部活動改革に重点的に取り組むこととしており、子どもの多様な体験の機会を確保するとともに、持続可能な運営を図るうえで必要な事項を審議するために、外部有識者や学校、地域団体の代表等で構成される「熊本市部活動改革検討委員会」を設置した。本アンケートを通して多くの方々にご意見をいただき、同検討委員会における基礎資料とするため、アンケートを実施するもの。

(2) 調査期間

令和4年（2022年）12月5日（月）から12月19日（月）

(3) アンケートの対象及び回答方法

対象	回答方法 ※Microsoft Formsを使用	回答数	対象数 (全数)	回答率
中学生	学校のタブレット端末（iPad）で回答	10,085人	19,430人	51.9%
中学生保護者	安心安全メールにて回答先URLを配布し、各自端末で回答	6,979人	19,430人	35.9%
中学校教員	回答用URLを配布し、各自回答	912人	1,371人	66.5%
小学生保護者	安心安全メールにて回答先URLを配布し、各自端末で回答	13,580人	40,617人	33.4%
小学校教員	回答用URLを配布し、各自回答	1,567人	2,520人	62.2%
小学校	回答用URLを配布し、各校回答	92校	92校	100.0%

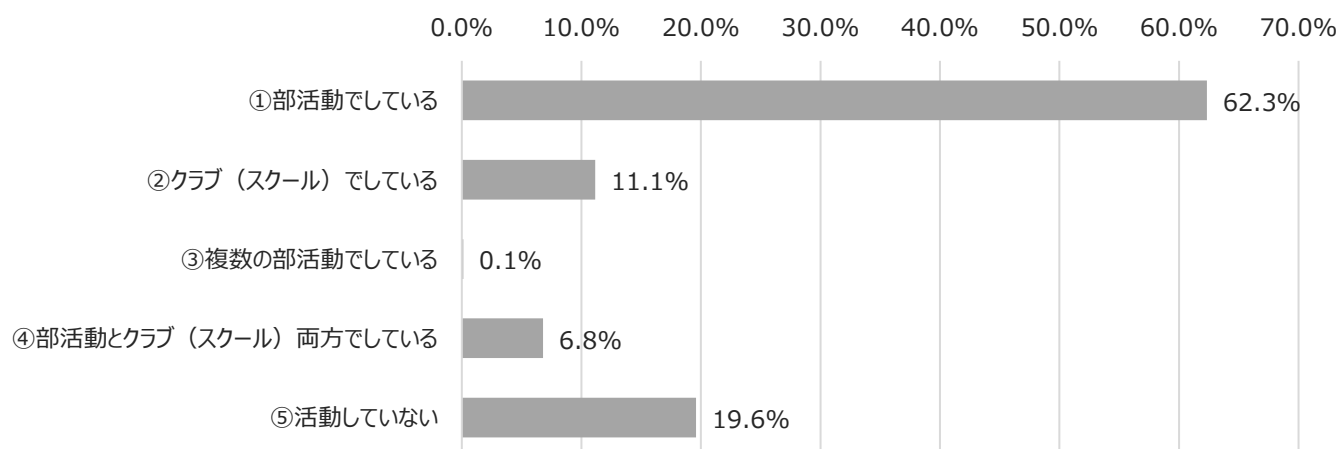
※ 調査結果は、各項目を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

※ 記述については、一部抜粋し掲載している。

I 中学生の運動・文化活動に関するアンケート

問1 運動や文化に関わる活動をしていますか。

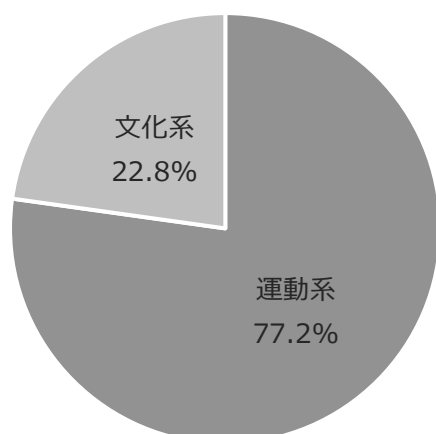
部活動のみに参加する生徒は約6割、クラブ（スクール）のみに参加している生徒は約1割、部活動にもクラブ（スクール）にも参加していない生徒は約2割であった。



	中学生	割合
①部活動でしている	6,287	62.3%
②クラブ（スクール）でしている	1,124	11.1%
③複数の部活動でしている	12	0.1%
④部活動とクラブ（スクール）両方でしている	686	6.8%
⑤活動していない	1,976	19.6%
計	10,085	

問2 所属している部活動は何ですか。

部活動に所属している生徒のうち、約 8 割が運動部に、約 2 割が文化部に所属していると回答した。

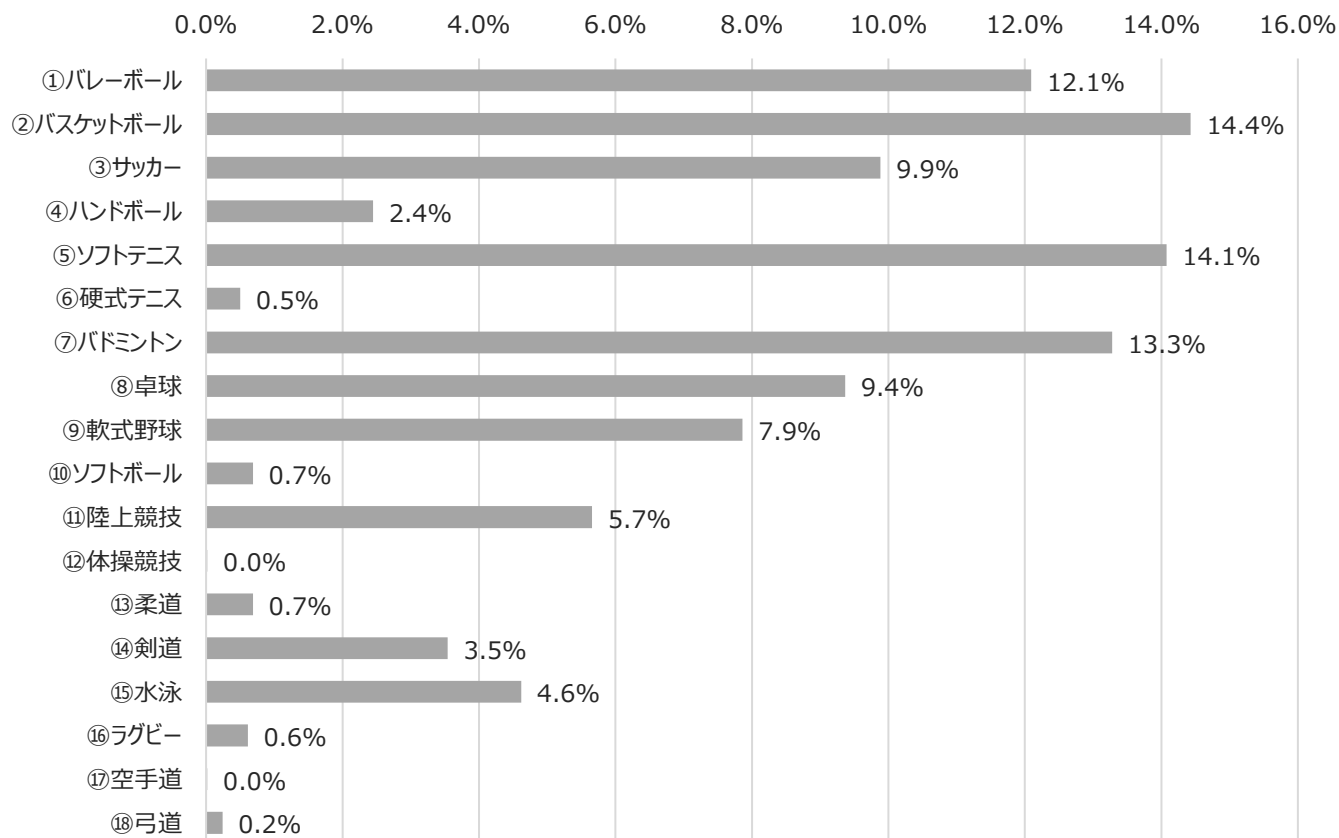


	中学生	割合
運動系	5,393	77.2%
文化系	1,592	22.8%
計	6,985	

問3 所属している部活動の種目を教えてください。

中学生が所属している運動部の種目は、「バスケットボール」が最も多く、「ソフトテニス」、「バドミントン」、「バレーボール」が続いている。

(運動系)

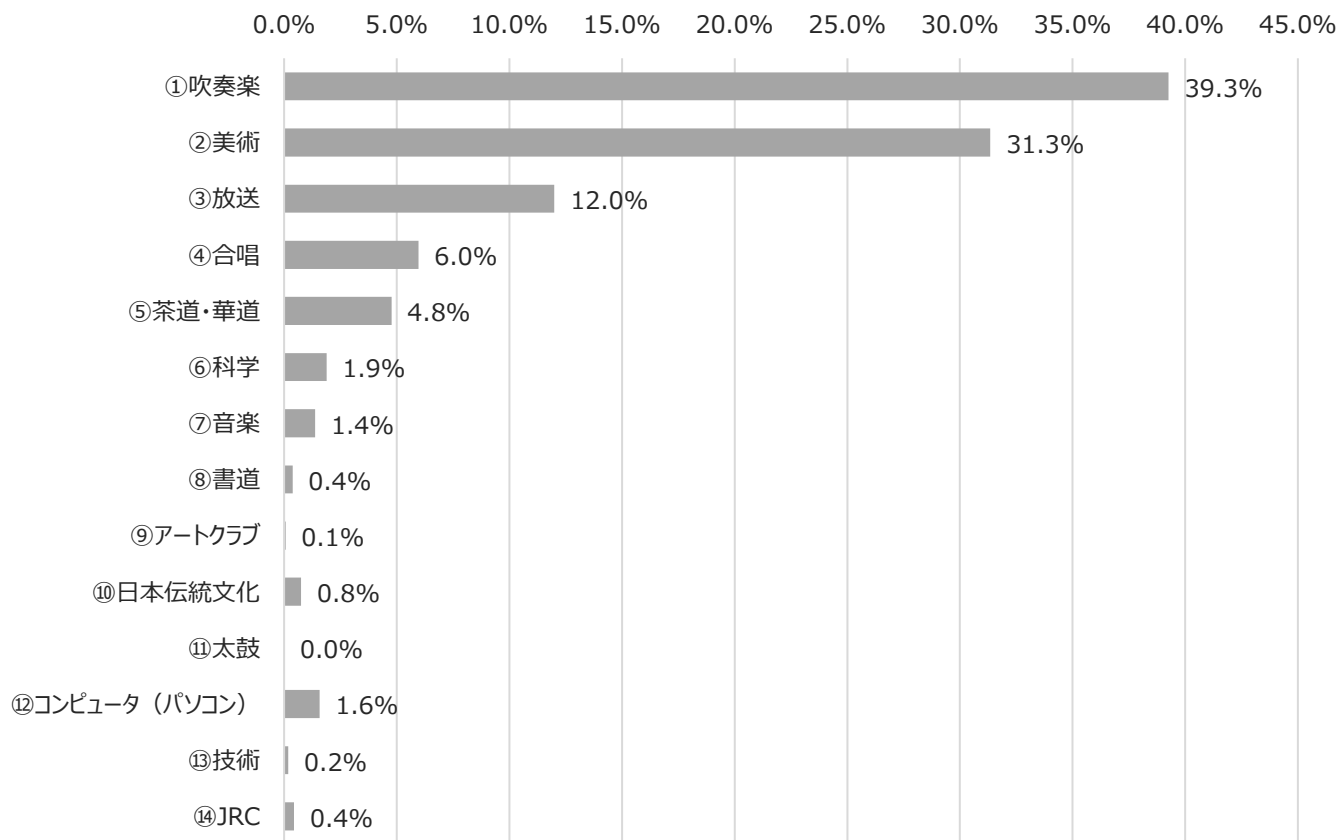


	中学生	割合
①バレーボール	652	12.1%
②バスケットボール	778	14.4%
③サッカー	533	9.9%
④ハンドボール	132	2.4%
⑤ソフトテニス	759	14.1%
⑥硬式テニス	27	0.5%
⑦バドミントン	716	13.3%
⑧卓球	505	9.4%
⑨軟式野球	424	7.9%
⑩ソフトボール	37	0.7%

	中学生	割合
⑪陸上競技	305	5.7%
⑫体操競技	1	0.0%
⑬柔道	37	0.7%
⑭剣道	191	3.5%
⑮水泳	249	4.6%
⑯ラグビー	33	0.6%
⑰空手道	1	0.0%
⑱弓道	13	0.2%
計	5,393	

中学生が所属している文化部の種目は、「吹奏楽」が最も多く、「美術」、「放送」、「合唱」が続いている。

(文化系)

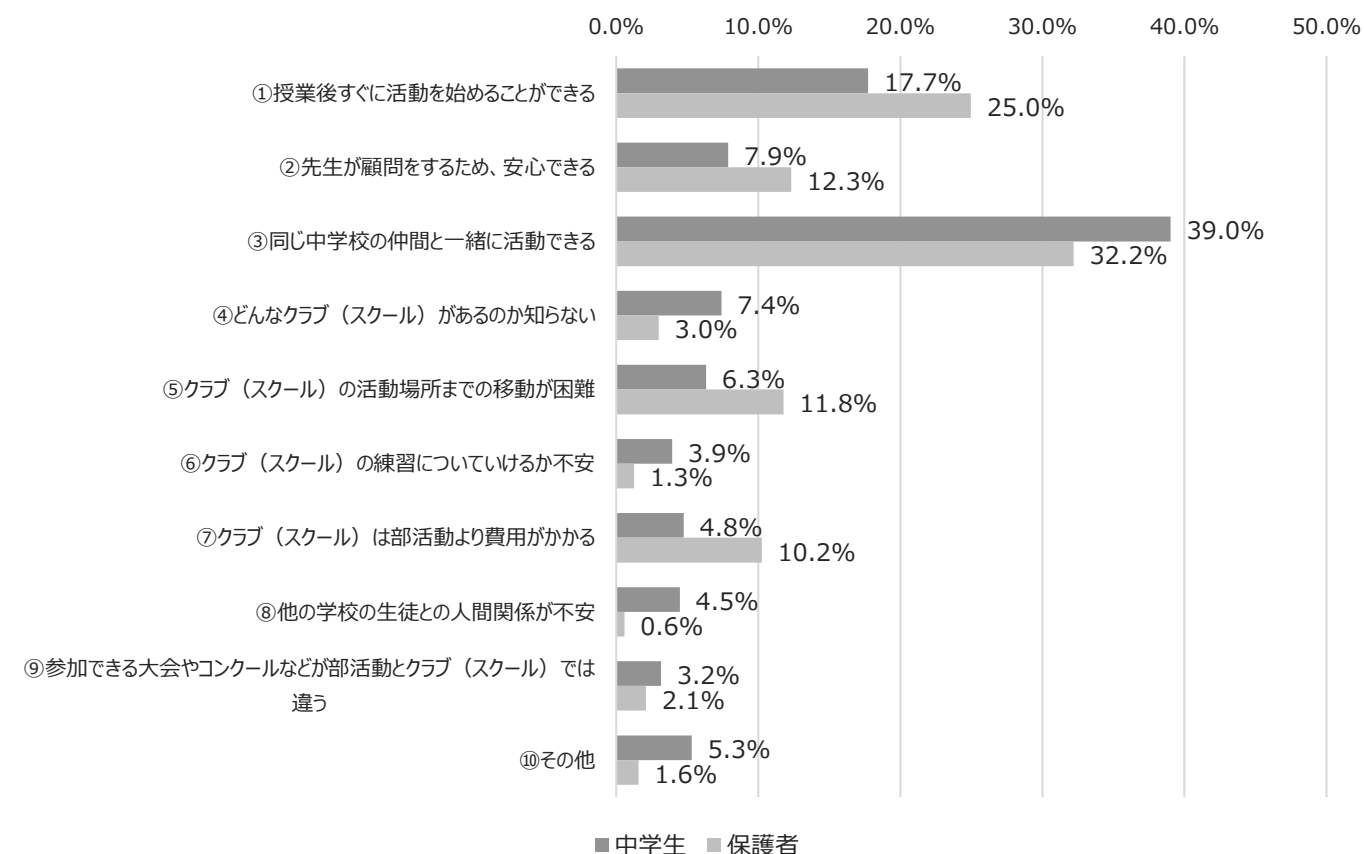


	中学生	割合
①吹奏楽	625	39.3%
②美術	499	31.3%
③放送	191	12.0%
④合唱	95	6.0%
⑤茶道・華道	76	4.8%
⑥科学	30	1.9%
⑦音楽	22	1.4%
⑧書道	6	0.4%
⑨アートクラブ	1	0.1%
⑩日本伝統文化	12	0.8%
⑪太鼓	0	0.0%
⑫コンピュータ (パソコン)	25	1.6%
⑬技術	3	0.2%
⑭JRC	7	0.4%
計	1,592	

問4 クラブ（スクール）ではなく、部活動に所属している理由を教えてください。

【複数回答可】

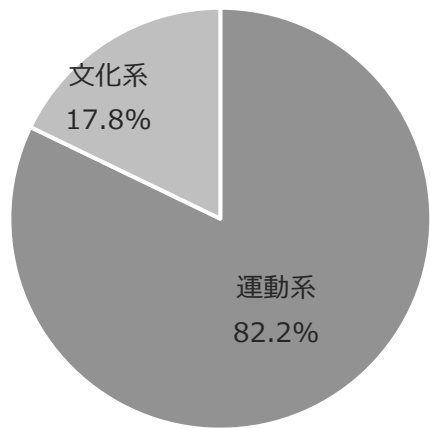
部活動に所属する理由は、中学生、保護者ともに「同じ中学校の仲間と一緒に活動ができる」が最も多く、「授業後すぐに活動を始められることができる」、「先生が顧問をするため、安心できる」が続いている。



	中学生	中学生割合	中・保護者	保護者割合
①授業後すぐに活動を始められることができる	2,257	17.7%	3,053	25.0%
②先生が顧問をするため、安心できる	1,003	7.9%	1,505	12.3%
③同じ中学校の仲間と一緒に活動できる	4,969	39.0%	3,937	32.2%
④どんなクラブ（スクール）があるのか知らない	944	7.4%	366	3.0%
⑤クラブ（スクール）の活動場所までの移動が困難	807	6.3%	1,439	11.8%
⑥クラブ（スクール）の練習についていけない不安	501	3.9%	154	1.3%
⑦クラブ（スクール）は部活動より費用がかかる	605	4.8%	1,252	10.2%
⑧他の学校の生徒との人間関係が不安	569	4.5%	71	0.6%
⑨参加できる大会やコンクールなどが部活動とクラブ（スクール）では違う	402	3.2%	257	2.1%
⑩その他	676	5.3%	192	1.6%
計	12,733		12,226	

問5 所属しているクラブ（スクール）は何ですか。

クラブ（スクール）に所属している生徒のうち、約 8 割が運動系、約 2 割が文化系に所属していると回答した。

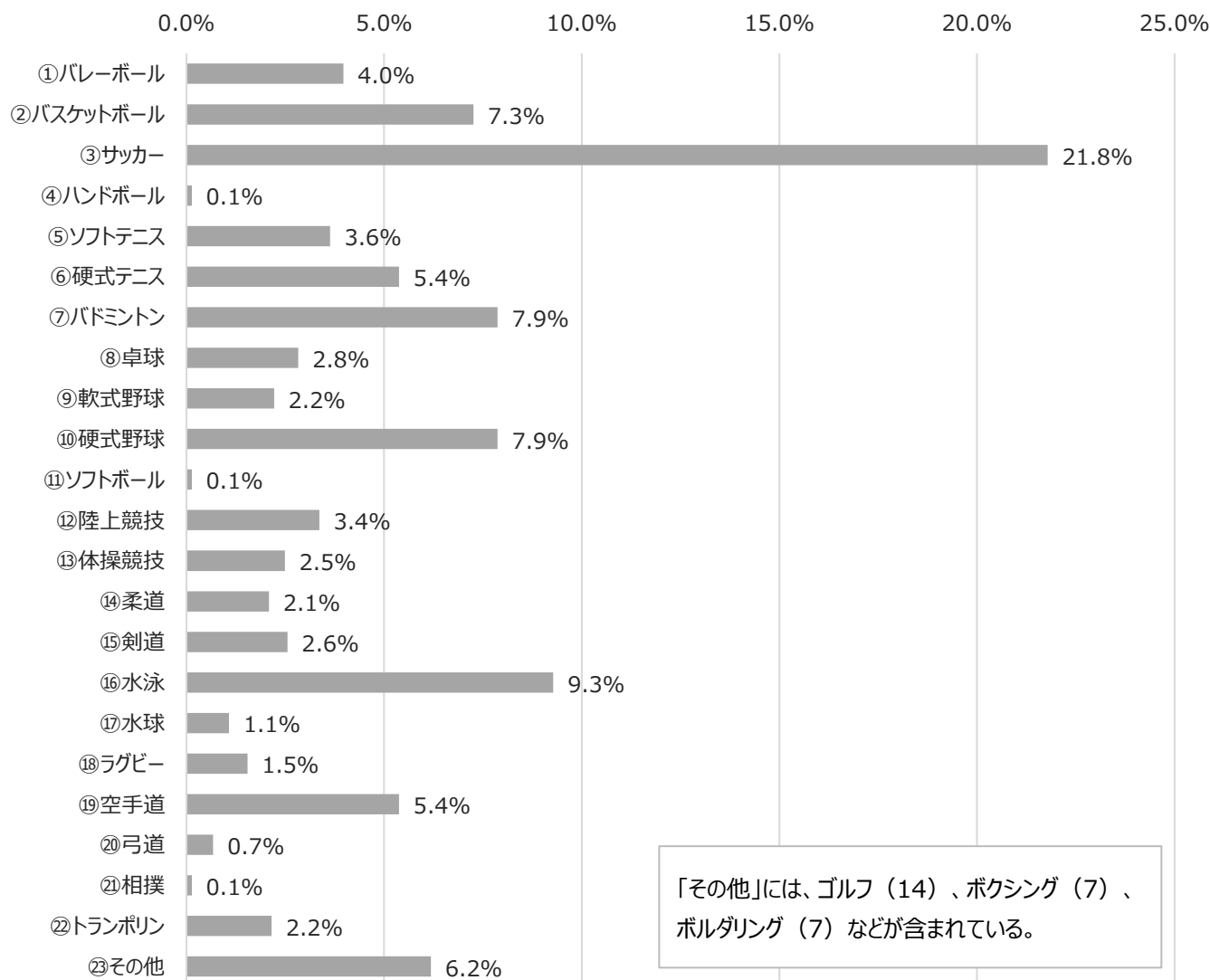


	中学生	割合
運動系	1,487	82.2%
文化系	323	17.8%
計	1,810	

問6 所属しているクラブ（スクール）で活動している種目を教えてください。

中学生が所属している運動系クラブの種目は、「サッカー」が最も多く、「水泳」、「バドミントン」、「硬式野球」が続いている。

(運動系)



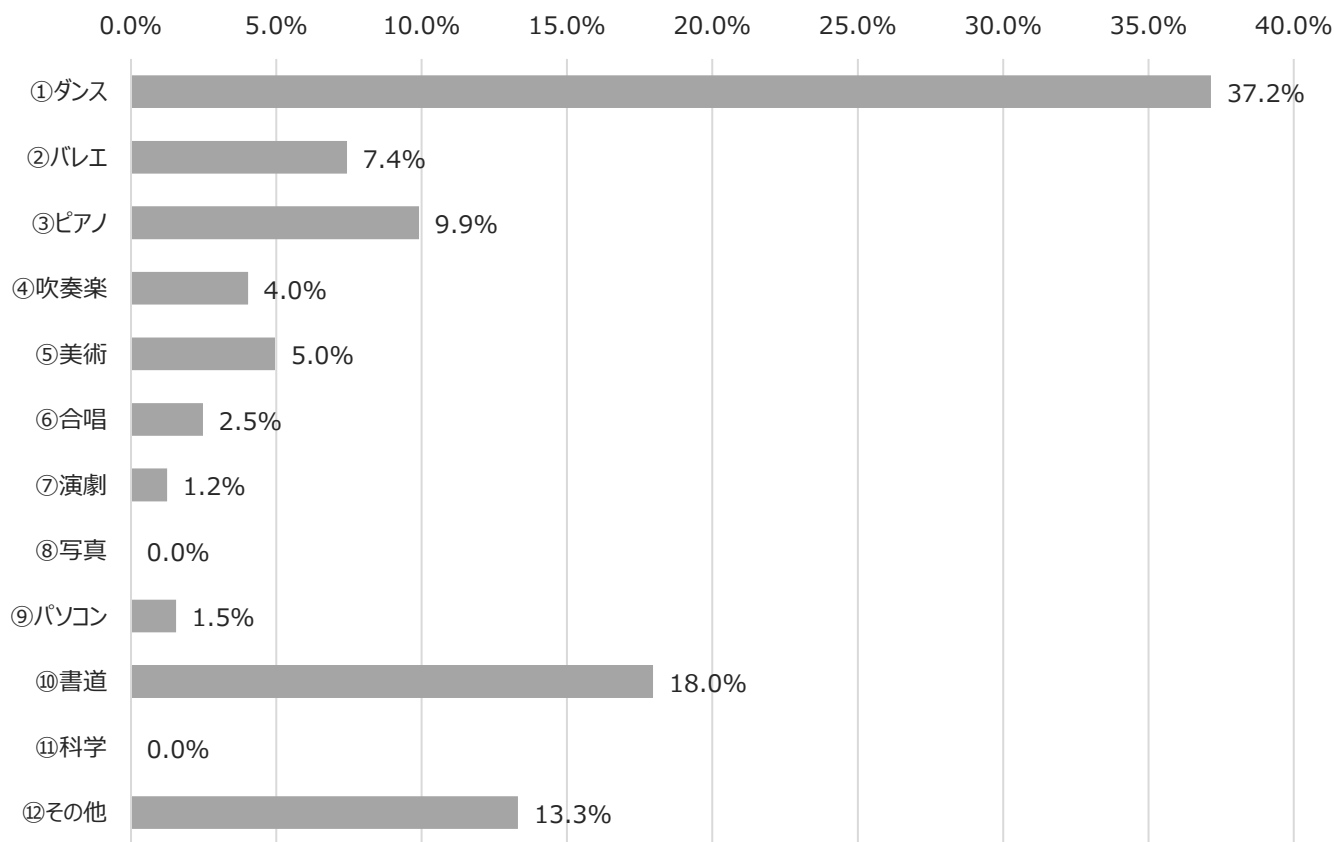
	中学生	割合
①バレーボール	59	4.0%
②バスケットボール	108	7.3%
③サッカー	324	21.8%
④ハンドボール	2	0.1%
⑤ソフトテニス	54	3.6%
⑥硬式テニス	80	5.4%
⑦バドミントン	117	7.9%
⑧卓球	42	2.8%
⑨軟式野球	33	2.2%
⑩硬式野球	117	7.9%
⑪ソフトボール	2	0.1%
⑫陸上競技	50	3.4%
⑬体操競技	37	2.5%

	中学生	割合
⑭柔道	31	2.1%
⑮剣道	38	2.6%
⑯水泳	138	9.3%
⑰水球	16	1.1%
⑱ラグビー	23	1.5%
⑲空手道	80	5.4%
⑳弓道	10	0.7%
㉑相撲	2	0.1%
㉒トランポリン	32	2.2%
㉓その他	92	6.2%
計	1,487	

※体操競技は体操、新体操の合算

中学生が所属している文化系クラブの種目は、「ダンス」が最も多く、「書道」、「ピアノ」が続いている。

(文化系)



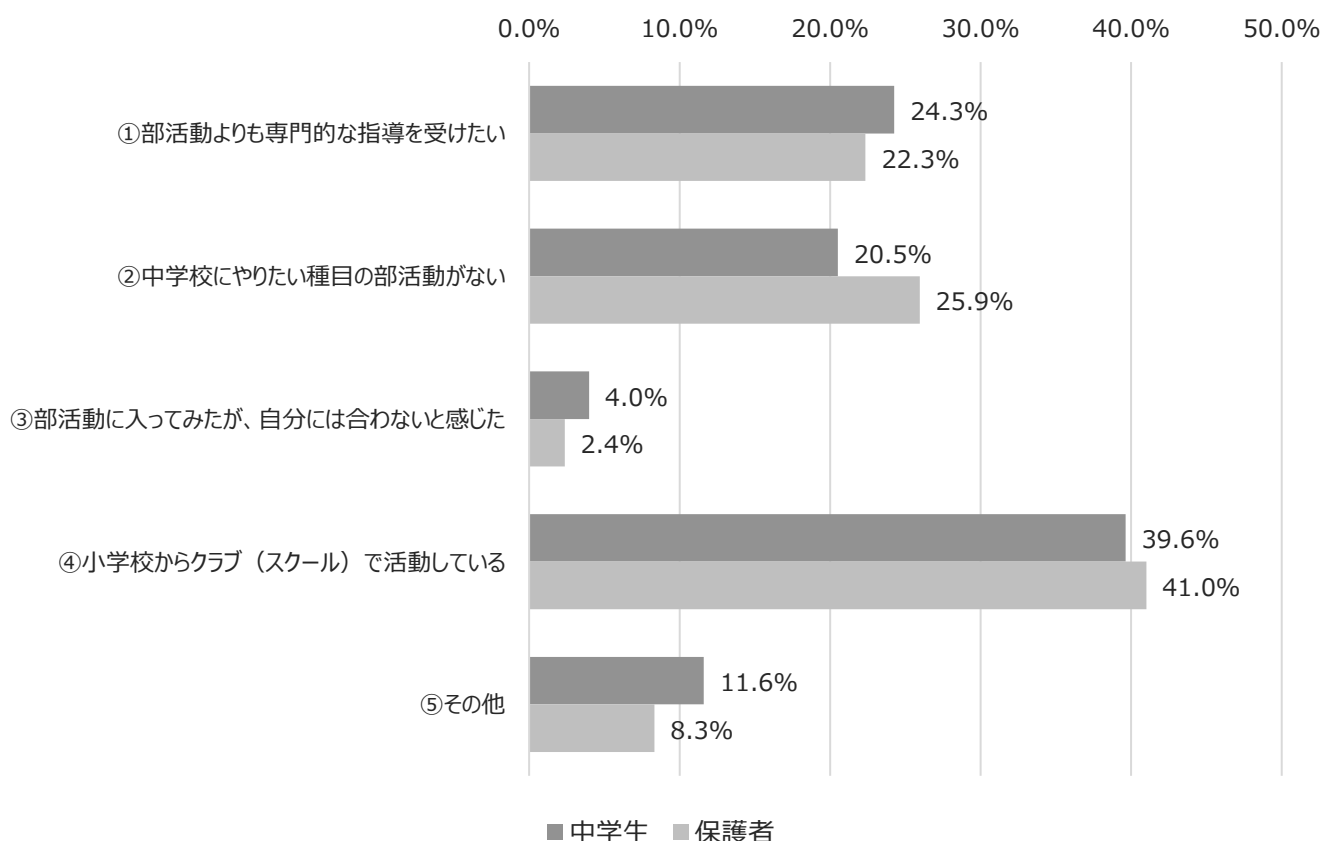
	中学生	割合
①ダンス	120	37.2%
②バレエ	24	7.4%
③ピアノ	32	9.9%
④吹奏楽	13	4.0%
⑤美術	16	5.0%
⑥合唱	8	2.5%
⑦演劇	4	1.2%
⑧写真	0	0.0%
⑨パソコン	5	1.5%
⑩書道	58	18.0%
⑪科学	0	0.0%
⑫その他	43	13.3%
計	323	

「その他」には、ドラムやギターなどピアノ以外の楽器（11）、和太鼓・太鼓（8）などが含まれている。

問7 部活動ではなくクラブ（スクール）で活動している理由を教えてください。

【複数回答可】

クラブ（スクール）で活動する理由は、中学生、保護者ともに「小学校からクラブ（スクール）で活動している」が約4割と最も多かった。中学生では、「部活動よりも専門的な指導を受けたい」、「中学校にやりたい種目の部活動がない」、保護者では、「中学校にやりたい種目の部活動がない」、「部活動よりも専門的な指導を受けたい」が続いている。

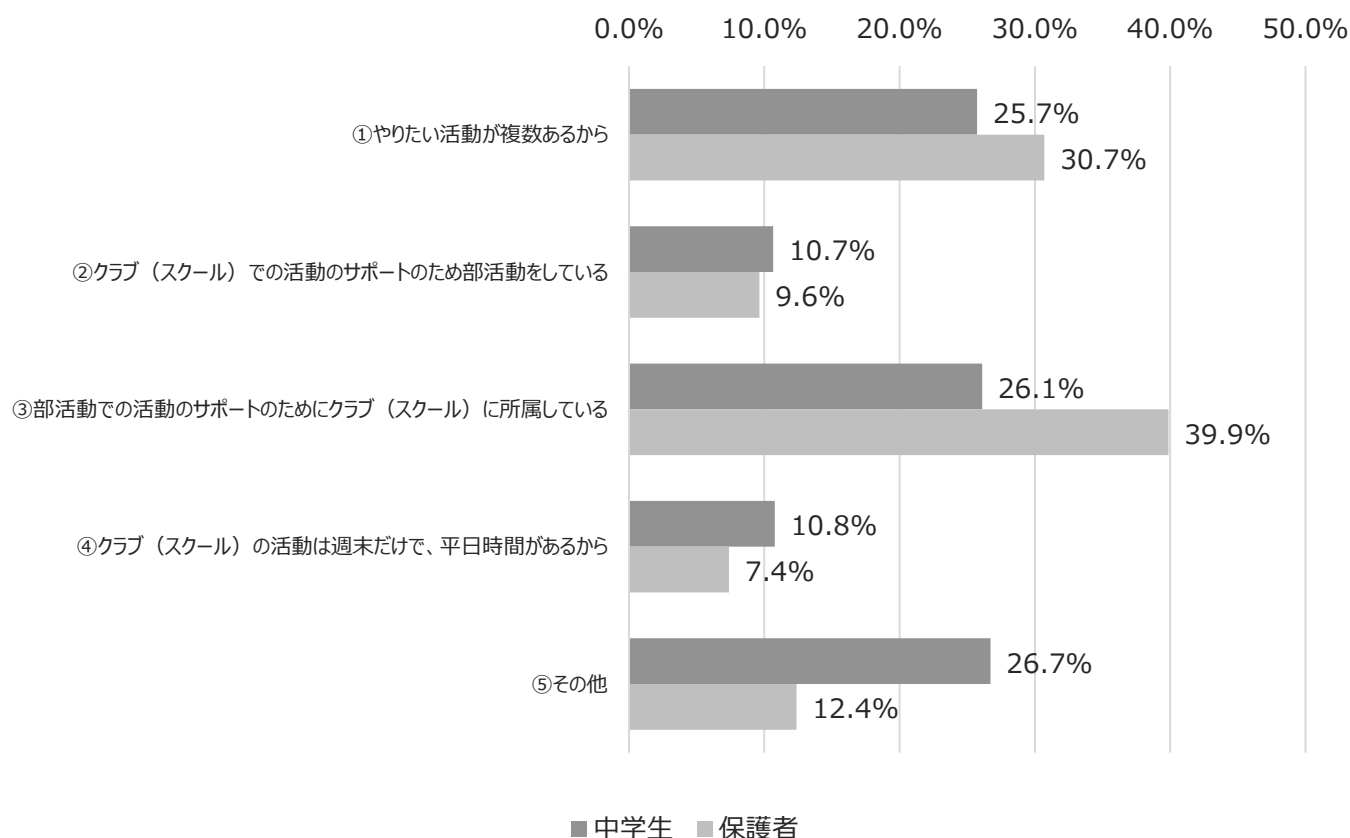


	中学生	中学生割合	中・保護者	保護者割合
①部活動よりも専門的な指導を受けたい	395	24.3%	236	22.3%
②中学校にやりたい種目の部活動がない	334	20.5%	274	25.9%
③部活動に入ってみたが、自分には合わないと感じた	65	4.0%	25	2.4%
④小学校からクラブ（スクール）で活動している	645	39.6%	433	41.0%
⑤その他	189	11.6%	88	8.3%
計	1,628		1,056	

問8 部活動とクラブ（スクール）両方で活動している理由を教えてください。

【複数回答可】

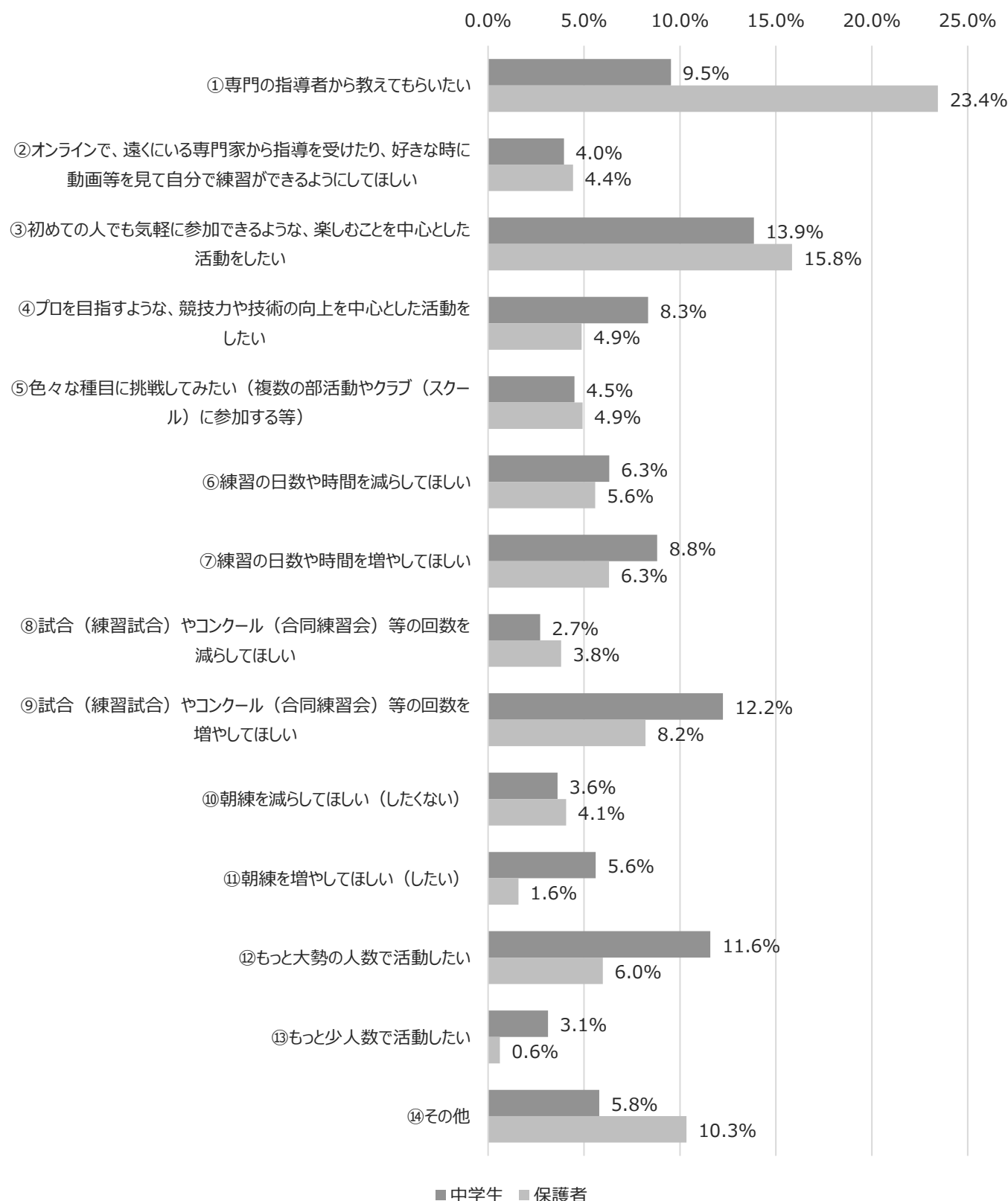
部活動とクラブ（スクール）両方で活動する理由は、「その他」を除き、中学生、保護者ともに「部活動での活動のサポートのためにクラブ（スクール）に所属している」が最も多く、「やりたい活動が複数あるから」、「クラブ（スクール）での活動のサポートのため部活動をしている」が続いている。中学生の「その他」には、「もっと上手になりたい」、「好きだから、楽しいから」、「小学生からやっているから」などが含まれる。



	中学生	中学生割合	中・保護者	保護者割合
①やりたい活動が複数あるから	210	25.7%	191	30.7%
②クラブ（スクール）での活動のサポートのため部活動をしている	87	10.7%	60	9.6%
③部活動での活動のサポートのためにクラブ（スクール）に所属している	213	26.1%	248	39.9%
④クラブ（スクール）の活動は週末だけで、平日時間があるから	88	10.8%	46	7.4%
⑤その他	218	26.7%	77	12.4%
計	816		622	

問9 部活動やクラブ（スクール）での活動で、「もっとこうなったらいいのに」と思うことがあれば教えてください。【複数回答可】

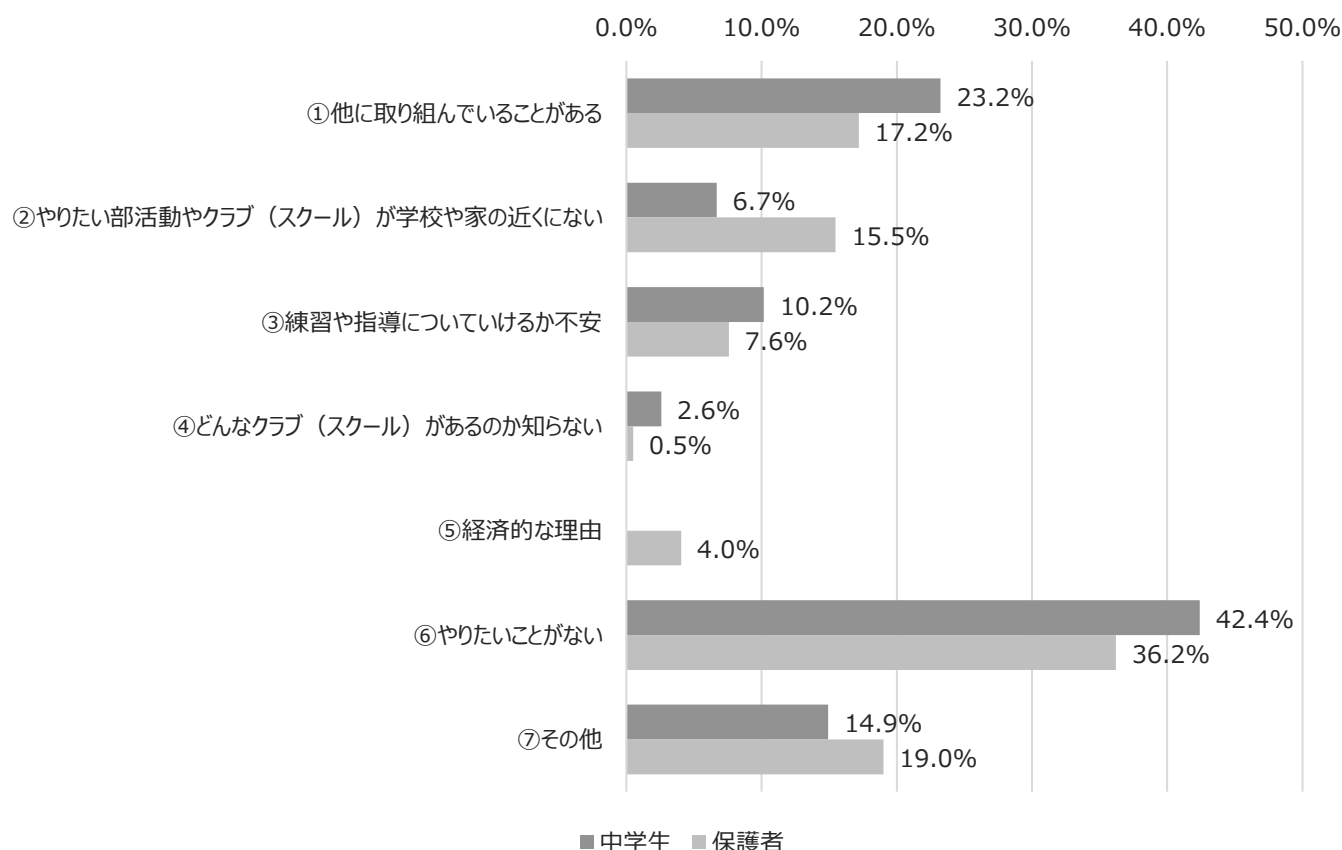
部活動やクラブ（スクール）での活動に対する要望としては、中学生は「初めての人でも気軽に参加できるような、楽しむことを中心とした活動をしたい」が最も多く、「試合（練習試合）やコンクール（合同練習会）等の回数を増やしてほしい」、「もっと大勢の人で活動したい」が続いている。保護者は「専門の指導者から教えてもらいたい」が最も多く、「初めての人でも気軽に参加できるような、楽しむことを中心とした活動をしたい」、「試合（練習試合）やコンクール（合同練習会）等の回数を増やしてほしい」と続いている。



	中学生	中学生割合	中・保護者	保護者割合
①専門の指導者から教えてもらいたい	1,681	9.5%	2,274	23.4%
②オンラインで、遠くにいる専門家から指導を受けたり、好きな時に動画等を見て自分で練習ができるようにしてほしい	697	4.0%	430	4.4%
③初めての人でも気軽に参加できるような、楽しむことを中心とした活動をしたい	2,444	13.9%	1,536	15.8%
④プロを目指すような、競技力や技術の向上を中心とした活動をしたい	1,472	8.3%	473	4.9%
⑤色々な種目に挑戦してみたい（複数の部活動やクラブ（スクール）に参加する等）	795	4.5%	477	4.9%
⑥練習の日数や時間を減らしてほしい	1,114	6.3%	541	5.6%
⑦練習の日数や時間を増やしてほしい	1,556	8.8%	611	6.3%
⑧試合（練習試合）やコンクール（合同練習会）等の回数を減らしてほしい	479	2.7%	369	3.8%
⑨試合（練習試合）やコンクール（合同練習会）等の回数を増やしてほしい	2,160	12.2%	796	8.2%
⑩朝練を減らしてほしい（したくない）	638	3.6%	395	4.1%
⑪朝練を増やしてほしい（したい）	990	5.6%	153	1.6%
⑫もっと大勢の人数で活動したい	2,044	11.6%	580	6.0%
⑬もっと少人数で活動したい	552	3.1%	60	0.6%
⑭その他	1,022	5.8%	1,003	10.3%
計	17,644		9,698	

問10 部活動にもクラブ（スクール）にも所属していない理由を教えてください。

部活動にもクラブ（スクール）にも所属しない理由は、中学生、保護者ともに、「やりたいことがない」が最も多く、約4割を占めている。中学生では、「他に取り組んでいることがある」、「練習や指導についていけない不安」が続いている。保護者では、「他に取り組んでいることがある」、「やりたい部活動やクラブ（スクール）が学校や家の近くにない」が続いている。



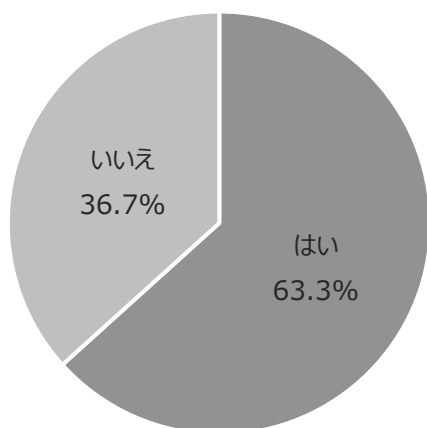
	中学生	中学生割合	中・保護者	保護者割合
①他に取り組んでいることがある	459	23.2%	170	17.2%
②やりたい部活動やクラブ（スクール）が学校や家の近くにない	132	6.7%	153	15.5%
③練習や指導についていけない不安	201	10.2%	75	7.6%
④どんなクラブ（スクール）があるのか知らない	51	2.6%	5	0.5%
⑤経済的な理由			40	4.0%
⑥やりたいことがない	838	42.4%	358	36.2%
⑦その他	295	14.9%	188	19.0%
計	1,976		989	

※中学生の選択肢に「⑤経済的な理由」は設定していない

問11 問10の課題等が解消すれば、運動や文化に関する活動に参加してみたい（してみしてほしい）ですか。

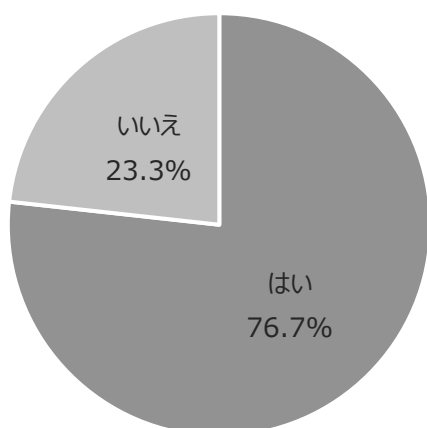
問10の課題等が解消すれば運動、文化活動に参加してみたい（してみしてほしい）と回答した生徒は約 6 割、保護者は約 8 割であった。

（中学生）



	中学生	中学生割合
はい	1,251	63.3%
いいえ	725	36.7%
計	1,976	

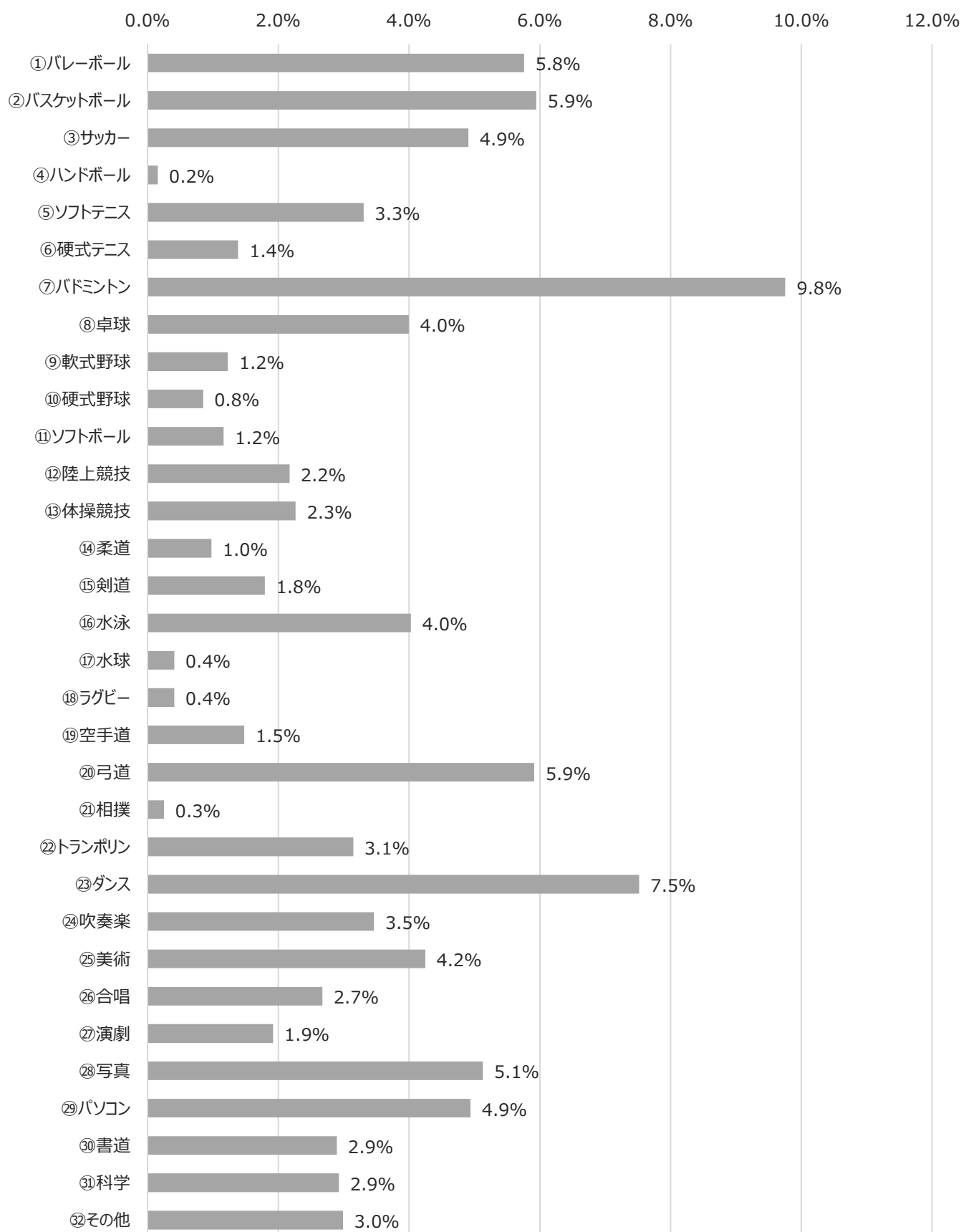
（保護者）



	中・保護者	保護者割合
はい	759	76.7%
いいえ	230	23.3%
計	989	

問12 問11の種目を教えてください。【複数回答可】

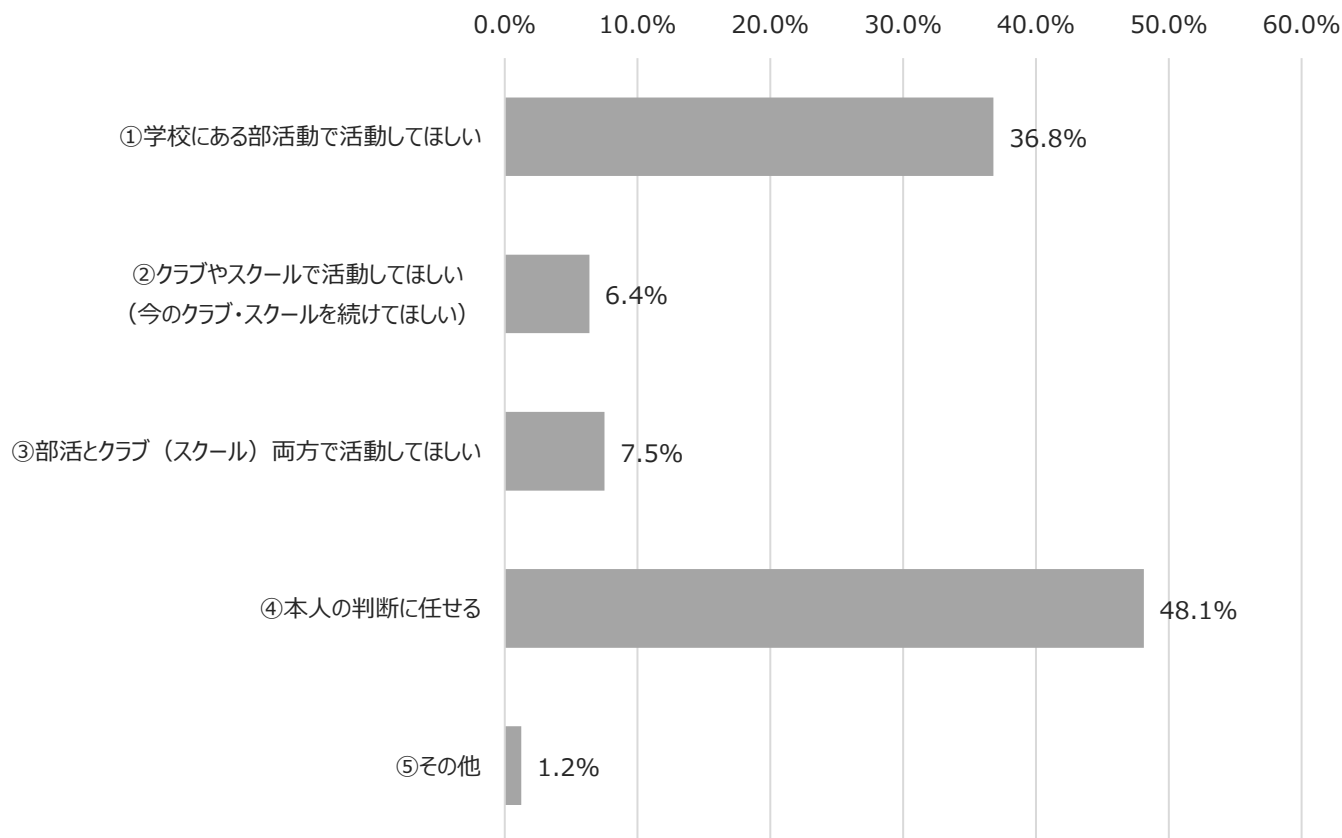
活動してみたい（してほしい）種目は、「バドミントン」が最も多く、「ダンス」、「バスケットボール」、「弓道」と続いている。



	中学生	中学生割合
①バレーボール	183	5.8%
②バスケットボール	189	5.9%
③サッカー	156	4.9%
④ハンドボール	5	0.2%
⑤ソフトテニス	105	3.3%
⑥硬式テニス	44	1.4%
⑦バドミントン	310	9.8%
⑧卓球	127	4.0%
⑨軟式野球	39	1.2%
⑩硬式野球	27	0.8%
⑪ソフトボール	37	1.2%
⑫陸上競技	69	2.2%
⑬体操競技	72	2.3%
⑭柔道	31	1.0%
⑮剣道	57	1.8%
⑯水泳	128	4.0%
⑰水球	13	0.4%
⑱ラグビー	13	0.4%
⑲空手道	47	1.5%
⑳弓道	188	5.9%
㉑相撲	8	0.3%
㉒トランポリン	100	3.1%
㉓ダンス	239	7.5%
㉔吹奏楽	110	3.5%
㉕美術	135	4.2%
㉖合唱	85	2.7%
㉗演劇	61	1.9%
㉘写真	163	5.1%
㉙パソコン	157	4.9%
㉚書道	92	2.9%
㉛科学	93	2.9%
㉜その他	95	3.0%
計	3,178	

問13 お子さんの運動や文化活動について、中学生になったらどのようにしたいですか。（お子さんと一緒に考えて回答してください）

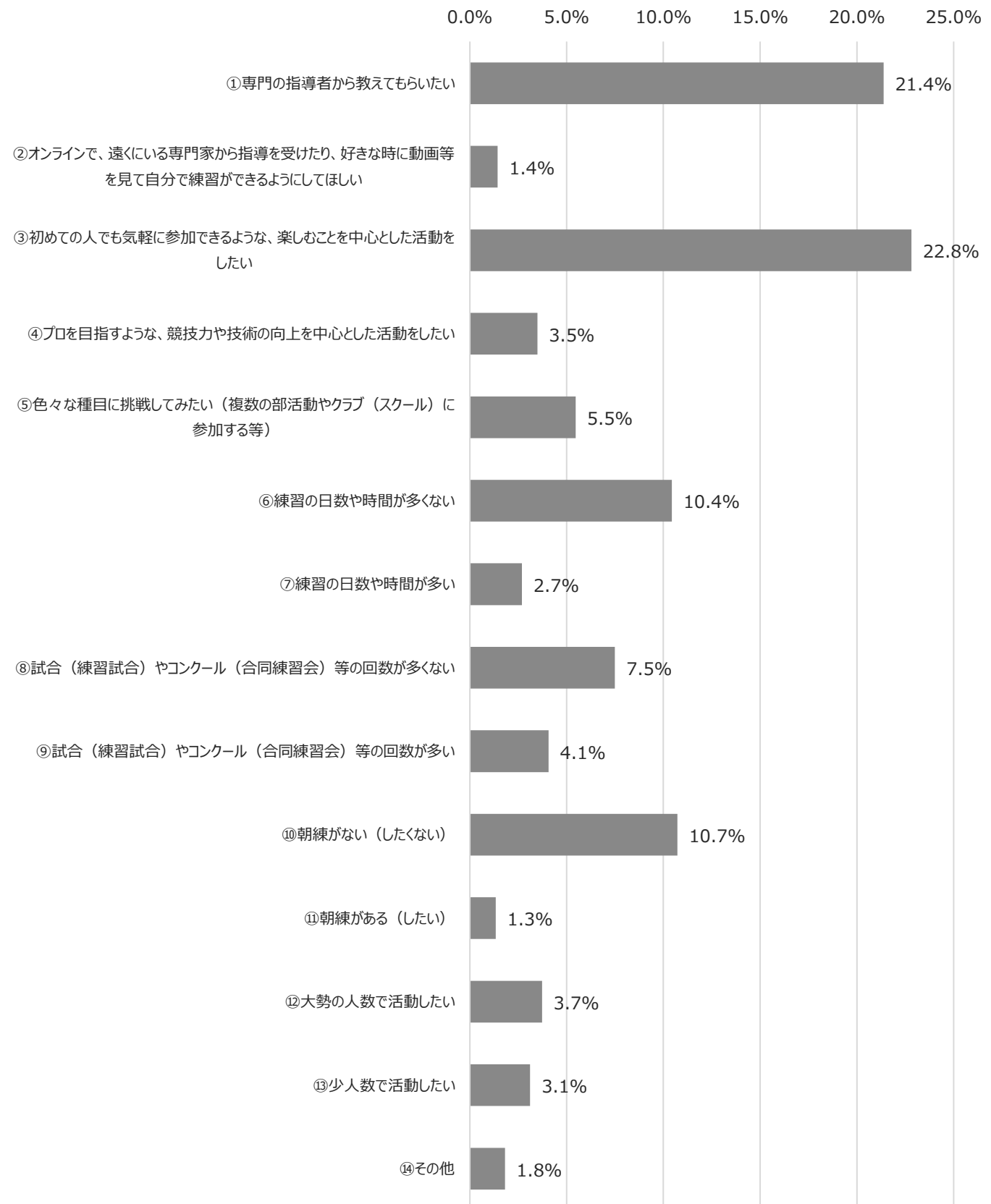
現小学6年生が中学生になってからどのような運動、文化活動をしたいかについて、「本人の判断に任せる」が約5割と最も多く、「学校にある部活動で活動してほしい」が約4割と続いている。



	小6 保護者	割合
①学校にある部活動で活動してほしい	867	36.8%
②クラブやスクールで活動してほしい (今のクラブ・スクールを続けてほしい)	150	6.4%
③部活とクラブ（スクール）両方で活動してほしい	177	7.5%
④本人の判断に任せる	1,134	48.1%
⑤その他	29	1.2%
計	2,357	

問14 その活動の内容は、どのようなものだと良いと思いますか。【複数回答可】

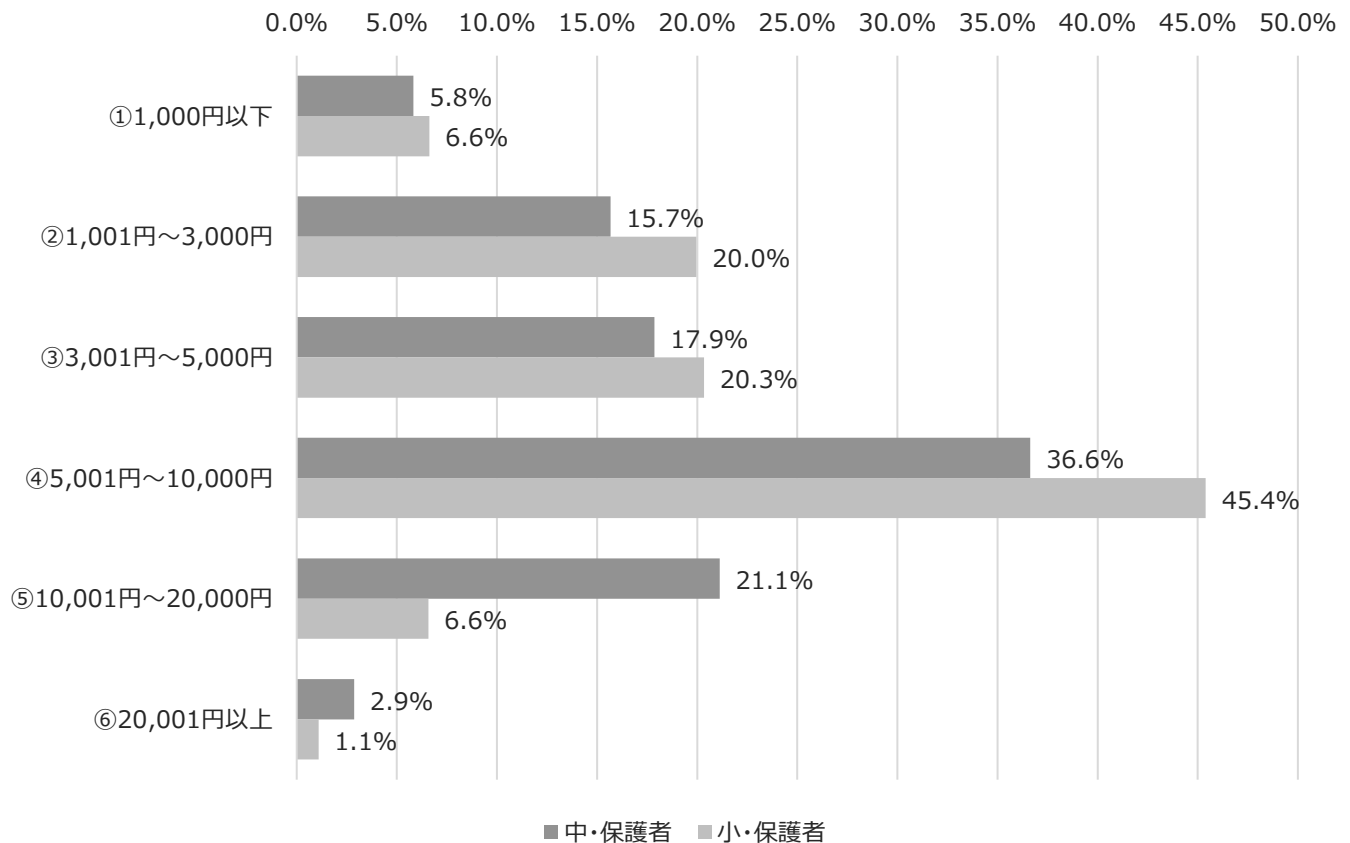
求める活動内容については、「初めての人でも気軽に参加できるような、楽しむことを中心とした活動をしたい」が最も多く、「専門の指導者から教えてもらいたい」が続いている。



	小6 保護者	保護者割合
①専門の指導者から教えてもらいたい	1,119	21.4%
②オンラインで、遠くにいる専門家から指導を受けたり、好きな時に動画等を見て自分で練習ができるようにしてほしい	75	1.4%
③初めての人でも気軽に参加できるような、楽しむことを中心とした活動をしたい	1,194	22.8%
④プロを目指すような、競技力や技術の向上を中心とした活動をしたい	183	3.5%
⑤色々な種目に挑戦してみたい（複数の部活動やクラブ（スクール）に参加する等）	286	5.5%
⑥練習の日数や時間が多くない	546	10.4%
⑦練習の日数や時間が多	141	2.7%
⑧試合（練習試合）やコンクール（合同練習会）等の回数が多くない	392	7.5%
⑨試合（練習試合）やコンクール（合同練習会）等の回数が多い	213	4.1%
⑩朝練がない（したくない）	561	10.7%
⑪朝練がある（したい）	70	1.3%
⑫大勢の人数で活動したい	195	3.7%
⑬少人数で活動したい	163	3.1%
⑭その他	95	1.8%
計	5,233	

問15 お子さんが所属しているクラブ（スクール）に、会費として定期的に支払っている費用負担額は、一月当たりどの程度ですか。

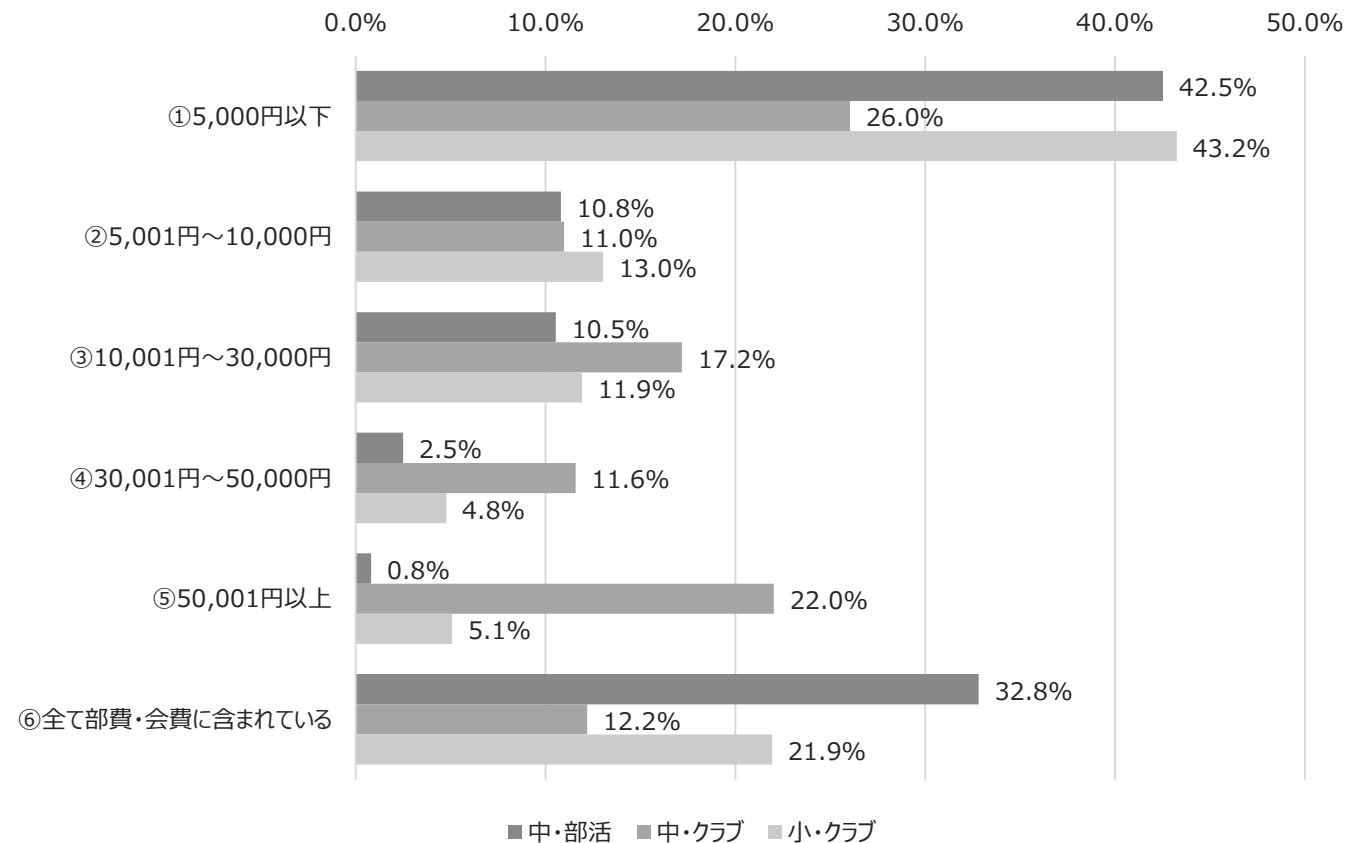
所属しているクラブ（スクール）に会費として定期的に支払っている一月当たりの費用負担額は、中学生保護者、小学生保護者ともに「5001円～10,000円」が最も多い。中学生保護者では、「10,001円～20,000円」、「3,001円～5,000円」が続いている。小学生保護者では、「3,001円～5,000円」、「1,001円～3,000円」が続いている。



	中・保護者	中・保護者割合	小・保護者	小・保護者割合
①1,000円以下	77	5.8%	612	6.6%
②1,001円～3,000円	207	15.7%	1,844	20.0%
③3,001円～5,000円	236	17.9%	1,880	20.3%
④5,001円～10,000円	484	36.6%	4,195	45.4%
⑤10,001円～20,000円	279	21.1%	608	6.6%
⑥20,001円以上	38	2.9%	101	1.1%
計	1,321		9,240	

問16 お子さんが所属している部活動、クラブやスクールで、定期的に支払う部費や会費以外に、遠征費など不定期に発生する費用は、年間どの程度ですか。

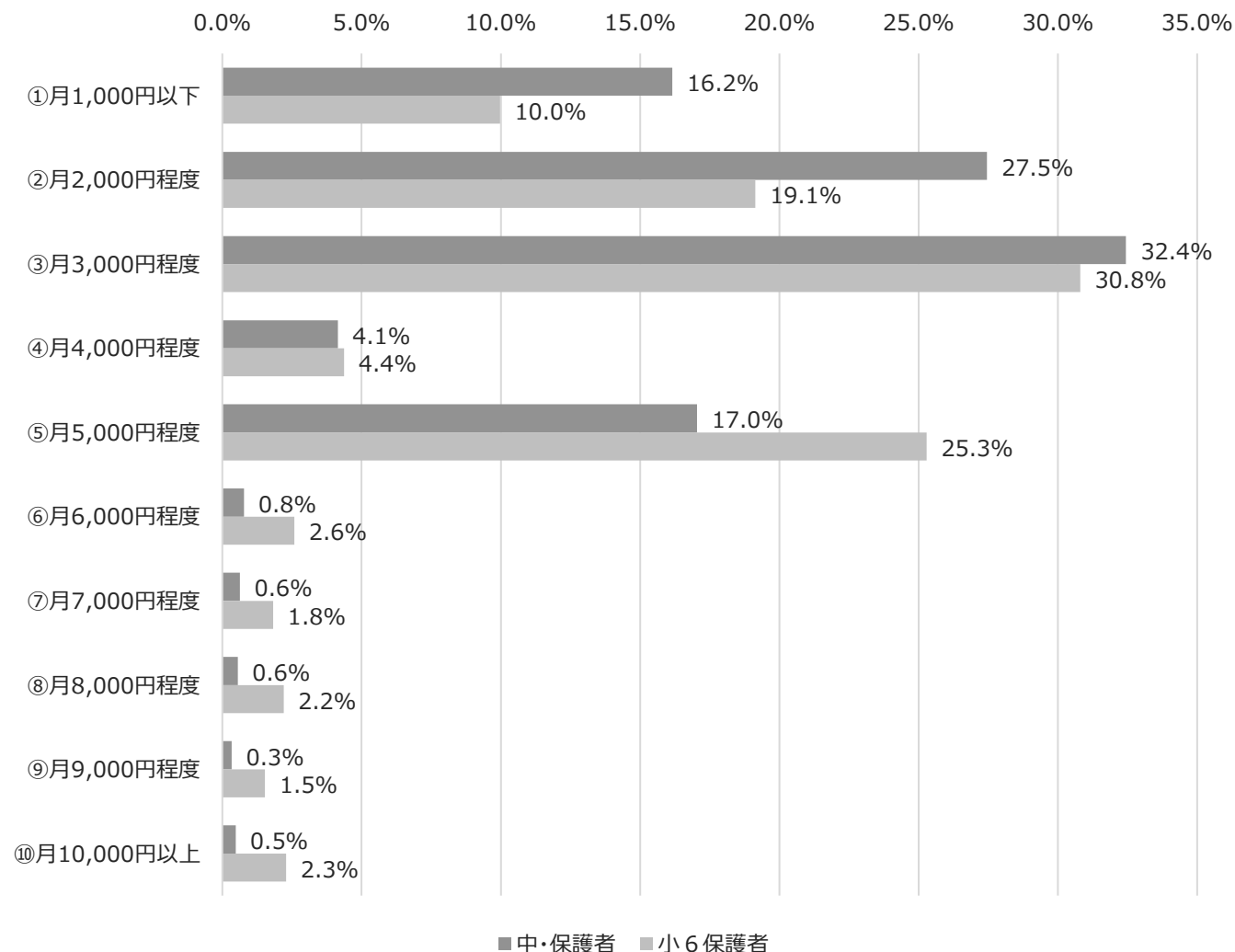
所属している部活動やクラブ（スクール）における遠征費等不定期に発生する費用の年間負担額は、全ての活動種において「5,000円以下」が最も多い。中学生の部活動、小学生のクラブ（スクール）では「全て部費・会費に含まれている」、「5,001円～10,000円」が続いている。中学生のクラブ（スクール）では「50,001円以上」、「10,001円～30,000円」が続いている。



	中・部活	部活割合	中・クラブ	クラブ割合	小・クラブ	小・クラブ割合
①5,000円以下	2,232	42.5%	344	26.0%	3,996	43.2%
②5,001円～10,000円	567	10.8%	145	11.0%	1,204	13.0%
③10,001円～30,000円	553	10.5%	227	17.2%	1,102	11.9%
④30,001円～50,000円	131	2.5%	153	11.6%	441	4.8%
⑤50,001円以上	43	0.8%	291	22.0%	470	5.1%
⑥全て部費・会費に含まれている	1,722	32.8%	161	12.2%	2,027	21.9%
計	5,248		1,321		9,240	

問17 問9～問14でお答えいただいたような活動に参加する場合、毎月の会費としていくらまでの負担なら許容できますか。

毎月の費用負担については、中学生保護者、小学生保護者ともに「月3,000円程度」が約3割と最も多い。中学生保護者では、「月2,000円程度」、「月5,000円程度」が続いている。小学生保護者では、「月5,000円程度」、「月2,000円程度」が続いている。

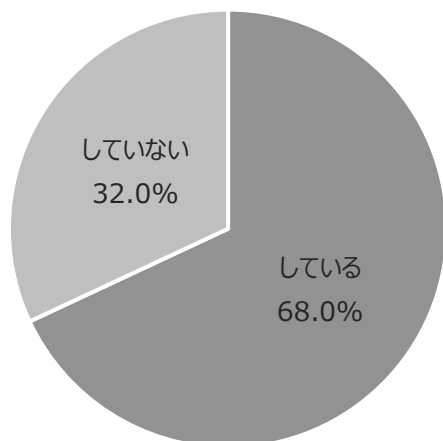


	中・保護者	保護者割合	小6保護者	保護者割合
①月1,000円以下	877	16.2%	235	10.0%
②月2,000円程度	1,490	27.5%	451	19.1%
③月3,000円程度	1,761	32.4%	726	30.8%
④月4,000円程度	225	4.1%	103	4.4%
⑤月5,000円程度	925	17.0%	596	25.3%
⑥月6,000円程度	42	0.8%	61	2.6%
⑦月7,000円程度	34	0.6%	43	1.8%
⑧月8,000円程度	30	0.6%	52	2.2%
⑨月9,000円程度	18	0.3%	36	1.5%
⑩月10,000円以上	26	0.5%	54	2.3%
計	5,428		2,357	

Ⅱ 小学生の運動・文化活動に関するアンケート

問18 お子さんはクラブやスクール、習い事などで運動や文化に関わる活動をしていますか。

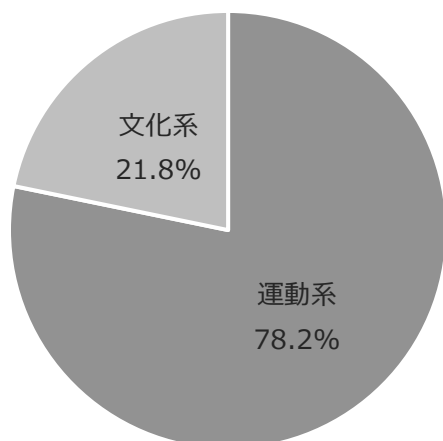
学校以外のクラブやスクール、習い事で活動している小学生は約7割であった。



	小・保護者	割合
している	9,240	68.0%
していない	4,340	32.0%
計	13,580	

問19 お子さんが所属しているクラブやスクールは何ですか。

クラブやスクールに所属している小学生のうち、約8割が運動系に、約2割が文化系に所属していると回答した。

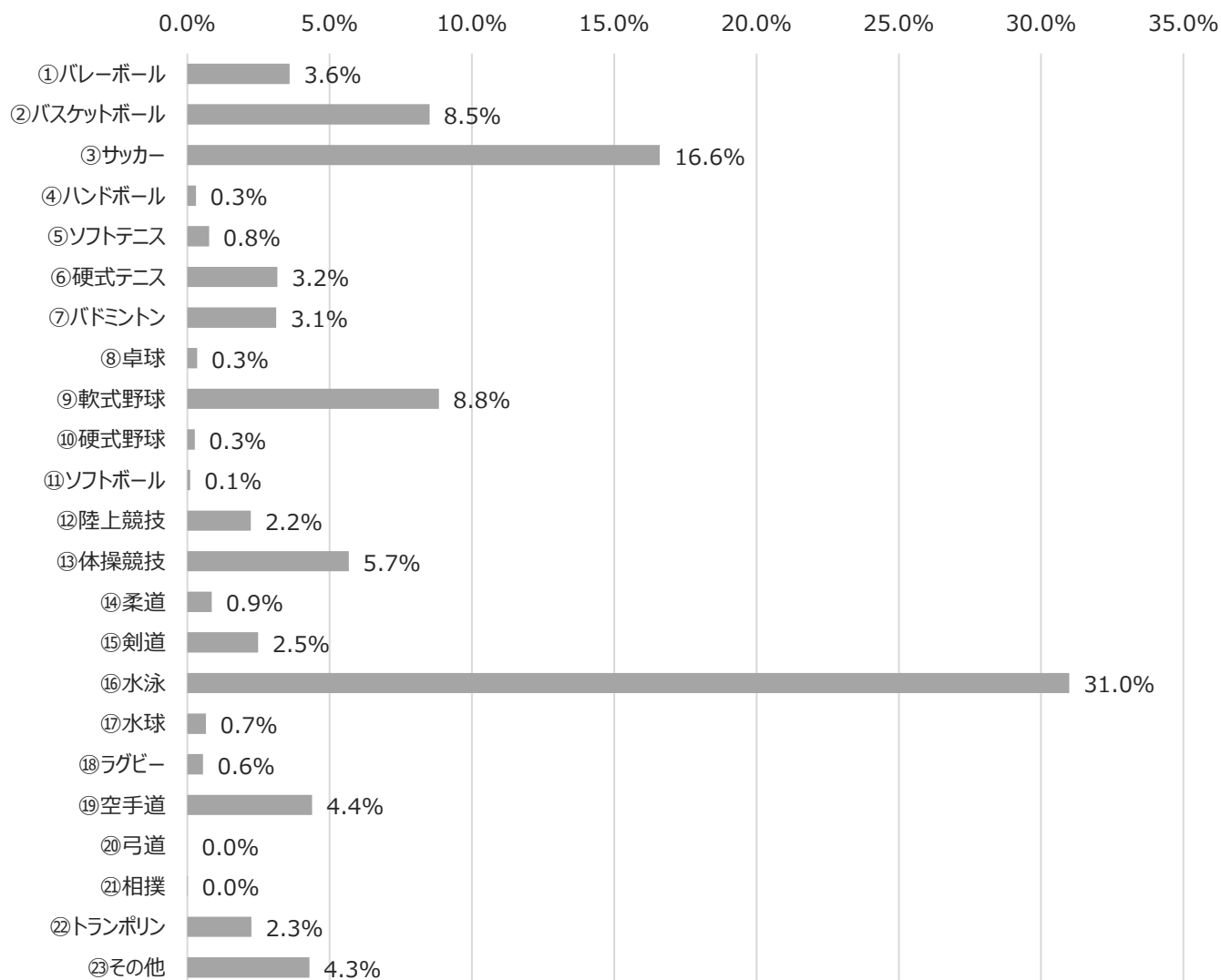


	小・保護者	割合
運動系	7,228	78.2%
文化系	2,012	21.8%
計	9,240	

問20 お子さんが所属しているクラブやスクールの種目を教えてください。

所属しているクラブやスクールの種目は、「水泳」が最も多く、「サッカー」、「軟式野球」が続いている。「その他」には、「ドッジボール」や「ボルダリング」などが含まれている。

(運動系)



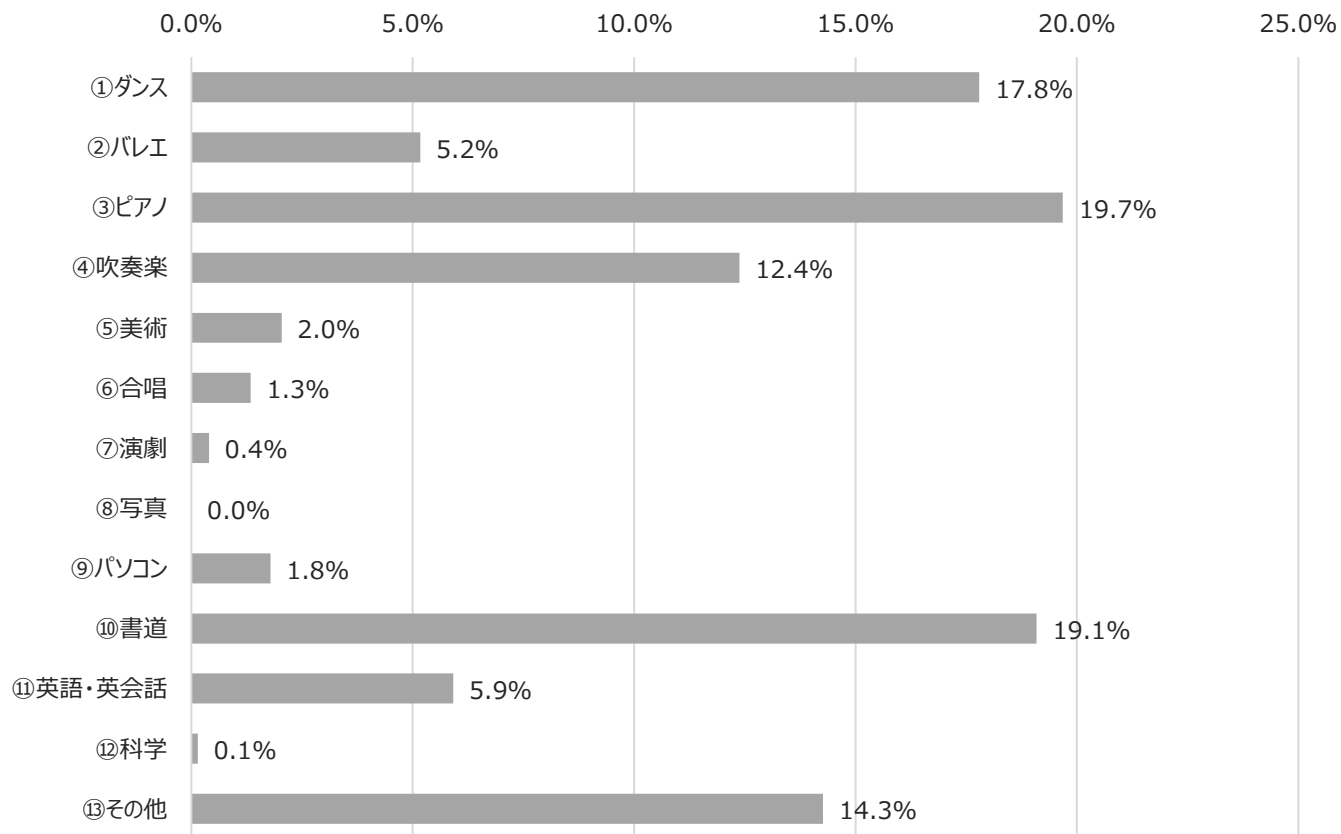
	小・保護者	割合
①バレーボール	260	3.6%
②バスケットボール	615	8.5%
③サッカー	1,200	16.6%
④ハンドボール	22	0.3%
⑤ソフトテニス	55	0.8%
⑥硬式テニス	229	3.2%
⑦バドミントン	226	3.1%
⑧卓球	25	0.3%
⑨軟式野球	639	8.8%
⑩硬式野球	19	0.3%
⑪ソフトボール	7	0.1%
⑫陸上競技	161	2.2%
⑬体操競技	410	5.7%

	小・保護者	割合
⑭柔道	62	0.9%
⑮剣道	180	2.5%
⑯水泳	2,240	31.0%
⑰水球	47	0.7%
⑱ラグビー	40	0.6%
⑲空手道	317	4.4%
⑳弓道	0	0.0%
㉑相撲	1	0.0%
㉒トランポリン	163	2.3%
㉓その他	310	4.3%
計	7,228	

※体操競技は体操、新体操の合算

所属しているクラブやスクールの種目は、「ピアノ」「書道」が最も多く、「ダンス」、「吹奏楽」が続いている。「その他」には、「そろばん」、「ドラムやバイオリンなどピアノ以外の楽器」などが含まれる。

(文化系)



	小・保護者	割合
①ダンス	358	17.8%
②バレエ	104	5.2%
③ピアノ	396	19.7%
④吹奏楽	249	12.4%
⑤美術	41	2.0%
⑥合唱	27	1.3%
⑦演劇	8	0.4%
⑧写真	0	0.0%
⑨パソコン	36	1.8%
⑩書道	384	19.1%
⑪英語・英会話	119	5.9%
⑫科学	3	0.1%
⑬その他	287	14.3%
計	2,012	

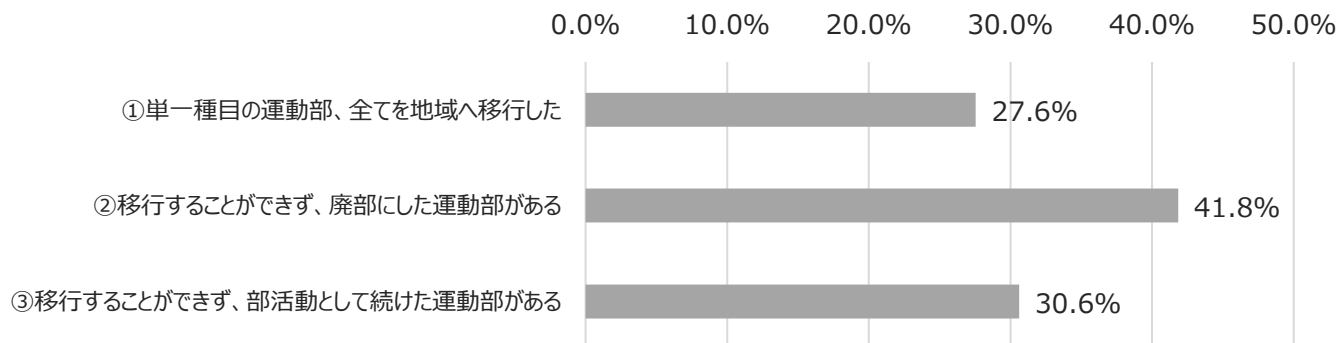
Ⅲ 小学校運動部活動の地域移行（社会体育化） に関するアンケート

(小学校の対応状況について)

問21 平成29年度から令和元年度にかけて、多くの小学校で運動部活動が地域に移行（社会体育化）しましたが、当時の部活動の地域移行の対応について、あてはまるものを選んでください。（同時に文化部活動についてもあり方を見直した場合は該当するものを選んでください）【複数選択可】

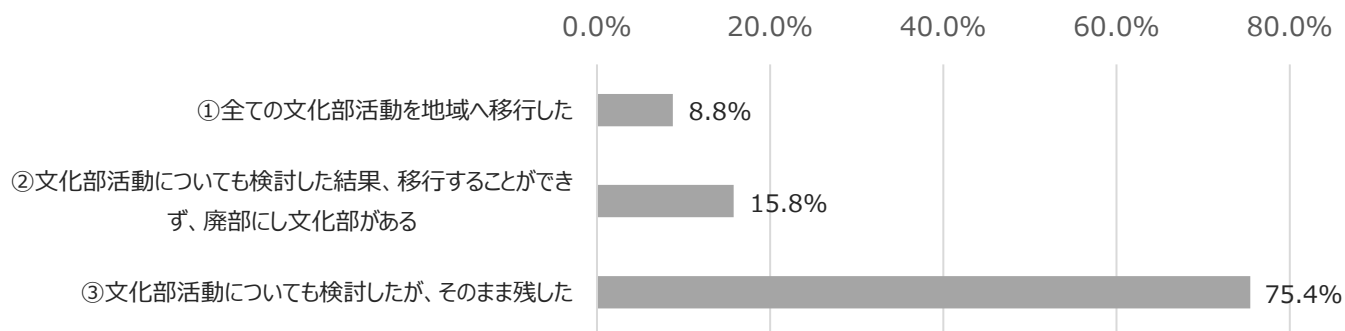
運動部については約7割が、文化部については約9割が地域移行することができなかった。

(運動部)



	小学校	割合
①単一種目の運動部、全てを地域へ移行した	27	27.6%
②移行することができず、廃部にした運動部がある	41	41.8%
③移行することができず、部活動として続けた運動部がある	30	30.6%
計	98	

(文化部)



	小学校	割合
①全ての文化部活動を地域へ移行した	5	8.8%
②文化部活動についても検討した結果、移行することができず、廃部にし文化部がある	9	15.8%
③文化部活動についても検討したが、そのまま残した	43	75.4%
計	57	

問22 部活動の地域への移行を検討するにあたって、指導者の確保や金銭面、施設管理等、課題に感じたことやよかったことなどを教えてください。（記述）

◎指導者の確保について
一旦、廃部としたが、保護者からクラブを立ち上げたいとの相談があり、地域スポーツクラブへの加入を提案した。部活動と並行して、一時保護者立ち上げのクラブ的なものが作られたが、1年しか続かなかった。指導者の確保が難しく、継続は厳しい印象であった。
音楽部の地域への移行は指導者確保の面を中心に難しい。文化部活動（吹奏楽部）については、地域に移行した場合、楽器の保管場所、練習場所について困難な課題となっている。
指導者の確保は難しい問題で、実態としては保護者が指導を担当するケースが多いように思う。そうすると活動の時間を工夫しないといけない。または活動開始までの時間を子どもたちがどのように過ごすかをそれぞれの部活動単位で考えないといけない。
地域に移行しても続けたい職員がいれば、比較的スムーズで、続けるうちに一緒に指導してくれる地域人材も見つかるようだが、一から探すのはとても難しい。
◎スムーズに移行した
地域の社会体育組織がしっかりしているため、その組織と連携を取っていくことで保たれている。年に2回程夜、会合を設定している。
総合型地域スポーツクラブがあったので、部活を廃部しても問題なかった。やりたい子はスポーツクラブの会員となって現在も運動に親しんでいる。
◎練習場所・施設管理について
施設管理は夜間や土日がほとんどであり、体育館や運動場の管理についても、スポーツクラブの管理人の方が担当されているので、学校に負担はなかった。ただ、夕方の体育館を使いたいという意見もあり、カギの管理など今後課題となっていくであろう。
課題は、施設利用の取り決めや放課後クラブまでの時間の児童の所在など細かいところの規約を作っていないこと、活動時間や活動日数等を決めるにあたり、部活動とは違い、小学生の実態に合わせた配慮がなされていたか否かについては疑問が残った。
部活動で自分たちが使う場や物は職員と児童で環境整備を行っていたが、それがなくなり、外部は使うだけであることから施設や環境整備面に課題がある。サッカーゴールポストの使用について、社会体育では使用することに残してほしいとの要望があった。しかしながら、学校の教育活動では使用しないので、安全面において、またその管理においてが課題が残った。
水泳部があり、社会体育への移行にあたり学校のプールが使用できなくなるため、社会体育への移行にするか部活動を残していくかで結論がでなかった。（現在は水泳部は廃部）
種目によって練習量等の温度差が見られ、今後学校施設を貸し出す際の基準が難しくなる恐れがある。
◎総合運動部について
総合運動部と器楽部がある。教員の希望や配置に配慮を要する。勤務時間内、長期休業はなしなど、負担軽減に努めている。当番制にしているが、部活動主担当には、負担感があると思われる。
サッカー部、バスケット部の部員数の減少傾向をお知らせし、2年後に総合運動部に移行するという方針をPTA 総会で伝えたことで、スムーズに総合運動部に移行できた。サッカー部、バスケット部で使っていた道具やユニフォームを学校に寄付するものと各児童に返すもの、部費を残さないように各部で調整した。
◎その他
社会体育と部活動の違いが保護者に伝わりにくかった。
地域に移行することで児童がより専門的な人に指導してもらえるのはメリットである。
日本の社会が17時に仕事が終われる社会ではない。指導者の都合になると、スタート時間が遅くなる。遅くなると、開始までの子どもの動きが不安で運動しない子どもが多くなっている状況がある。

問23 地域への移行を検討するにあたり、地域との連絡調整において課題に感じたことやよかったことなどを教えてください。（記述）

◎連絡調整について
グラウンドや体育館を複数のチームが使用することになった場合、割り振り与管理が難しい。地域との連絡調整は、地域連携を深めるうえで有効に働いたが、渉外担当の教頭の負担が大きい。グラウンドや体育館の休日使用について、学校が頻繁に調整をしている。
スポーツクラブや校区の体協があり、わりと連絡調整はできた。社会体育クラブとの連絡調整を図るために、学校の校務分掌に連絡調整担当を置いたことが機能した。
クラブチームの代表者が学校職員ではなくなったので、連絡調整の行き違いが起こるようになった。誰と連絡調整をすると地域移行が進むのか窓口が不明である。
移行期間は学校に連絡担当者を置いたが、現在は担当者なしでもスムーズに運営できている。
◎クラブと地域活動の違いについて
保護者の考えとして、部活動と社会体育との違いの理解が薄く、完全に地域スポーツに移っているが、運動部活動の名残から学校に何でも依頼してくることがあった。
学校部活の指針や趣旨に合わせた活動をするということで始まったが、練習量、勝利にこだわる方針など守れていないクラブがあり、どう調整をすればよいかが難しい。
完全に学校が関わらない組織となっていることが、浸透するのに時間がかかる。クラブからも積極的に発信してもらう必要がある。
部活から移行するにあたって、そのまま地域のクラブとしてできたもの、既存のクラブの中から選んで入っていったものがある。その中で地域にも受け入れがない場合、体協等に相談していったが、地域も対応に苦慮されていたようだ。
本校は女子バスケットボール部が盛んで保護者の方も関心が高い方が多くいらしたので、指導者の確保は出来ましたが、勝敗にこだわりが強く、子どもたちはなるべく自分が高い方へ向上できるチームを選んだので、バラバラになってしまいました。
◎保護者からの要望について
地域の受け皿がなく廃部になった部の保護者は反対の声が多く苦労した。
地域に移行したが、保護者の思いとしては学校部活動と変わらないので多くの要望が学校に寄せられた。それに適切に対応することで運営は順調である
◎練習時間について
部活動時代と同じ時間の練習なので、下校せずにそのまま活動している子どもがほとんどである。練習が始まるまでの合間の時間での事故やけがが心配である。
部活動ならば、と入っていた児童で運動が苦手な児童は運動部から遠のいた児童もいた。
◎施設・管理面について
施設管理の面で、難しい所がある。駐車場の使い方やゴールの移動など学校とは考え方の違う部分もある。そこを各団体に周知することが徹底できていない。（部活動以外の団体なども休日には入ってくるため）
◎指導者の確保について
異動になった後の地域の指導者探しが難しかった。
文化部（太鼓部）の指導者を確保することは困難であるものの、卒業生が時折指導に来てくれることもある。将来的には、継続的に指導できる人材に育ってくれることを期待している。
◎その他
検討会后、2年間の期間があったのでそれぞれに合った種目、チームに参加できている。
総合型地域スポーツが、市教委や学校の方針を優先していただけるのはよい。
地域に移行したことで、子どもたちと地域のつながりが強くなった。

問24 職員の働き方や学校運営上の変化について気づいたことを教えてください。 (記述)

◎働き方について（プラス面）
退勤時刻は圧倒的に早くなった。教員の負担軽減には効果大であった。在校時間の削減や保護者対応（主にクレーム等）の負担軽減については劇的な効果があったと思います。
教員にとって放課後の時間に余裕ができ、子どもと向き合える時間や教材研究の時間、事務処理にあたる時間として活用している。また、地域のクラブチームの指導に参加するようになった教員もいる。
勤務時間内に実施ができ、週に2日を全員で交代してきている学校や年3回、1時間程度の指導時間など、以前のような負担感は軽減されている。
これまでの運動部活動は、「全職員で担当する」とはなっていたものの、一部の職員だけが担当している状態が続いていた。社会体育へ移行されたことですべての職員が時間的な余裕を得ることができた。
放課後の時間に、学年会や研究授業の話し合い等、学年でまとまってすることを勤務時間内に全員が集合してできるようになったので、行事の前でも退勤が早くなった。
◎働き方について（マイナス面）
一部の残っている部活動を担当する教員にとっては、負担を感じるところもあるようだ。部活の主担当と、他の職員との放課後の差が感じられる。校務分掌上偏りがないようにとは思いますが、部活担当が力のある職員の場合、どうしても仕事に負担をかけてしまう。
運動部が地域へ移行していないため、変わっていない学校もある。
教職員の在校時間(勤務時間)の軽減にはつながったと思うが、その分子どもと向き合う時間が増えたのか疑問に思うところもある。
今、総合運動部を設置し、全教職員で担当しているが、できればそれも地域移行できるとありがたい。
部活動運営や応援などを通して培っていた職員のつながりが低下。毎週担当者が変わるので、継続した指導ができない。引き継ぎをしっかりとる必要がある。
生徒指導面が大変になった。部活がなくなったことで、時間的には楽になったが、高学年の生徒指導の部分で負担が増え、部活があった時よりも大変になった。精神的負担が増えている面もある。
土日の負担は大きく減った。平日は、それでもやることが多く、あまり早く帰れてはいない。校務分掌を決めるのは、楽になった。
◎学校運営上の成果・課題について
学校運営上では、これまでは部活動を担当者が中心になって運営していたが、総合運動部という形で、学校全体の職員で見えていくという形に変わり、ひとりにかかる負担は大きく軽減された。職員の意識も大きく変わったのではないかな。
地域連携型の7クラブに移行したものの、その中での人間関係のトラブルが学校に持ち込まれるが、クラブのため、介入が難しい部分もある。

問25 子どもの様子について気づいたことを教えてください。（記述）

◎プラス面について
子どももこの環境に慣れて特に影響はない。自分のしたい競技を専門的に学ぶことができるので、活動に対する満足度が高くなる。他の学校の児童ともつながる機会になり、他校との交流や中学校での関係作りがスムーズになった。
子供たちの帰宅時間も早くなり、安全面での心配が減り、家庭でそれぞれ有意義に生活している。（遊び、習い事、クラブチームでの活動等）
いろいろなところで活躍している子どもが増えたよさもある。高学年はもちろん、低学年からも参加することができるので、喜んで参加している。（部活動は4年生以上としていた）
学校が全体的に落ち着いているので、部活動が生徒指導に生きる場面はほとんど感じない。地域の方々とのつながりが良い影響を与えていると思う。
教師が元気になることでの余裕を持った指導、部活を後ろ盾にしない指導ができた。
◎マイナス面について
クラブに参加できる児童と参加していない児童で体力面で二極化が進んだように感じる。気軽に運動に触れる機会が減少し、運動離れや二極化が進んでいる感は否めないと思います。
部活動を通して育まれていた生徒指導的な内容（チームワーク・挨拶・掃除等）も大切だったように感じる。部活動でも育成していたリーダー性の育成が課題と感じる。また、部活動の指導で補っていたことが、見えづらく、補えなくなり、教師と部活動参加児童との人間関係が希薄になったことは否めない。
学校よりも、クラブチームの活動が優先されている子どもや保護者がいる。クラブチームでの問題を学校に持ち込むことがあるので、あまりいいとは思わない。指導者や保護者の体制をしっかりしてもらう必要があると感じる。保護者間で解決を行うか、警察等を間に入れるなどした方がいいのではないか。
部活動をそのまま地域スポーツという形で引き継いでもらったが、加入率が激減している。保護者が送り迎えできる場所は習い事として地域スポーツ以外のクラブ等で活動している児童もいるが、家庭的に厳しい児童はクラブに参加できていない。
◎生活面について
部活動から日常の生徒指導につなげることができなくなったせいか、目標に向かって、全力を尽くすことや協力することなどを経験する機会が減った、あいさつや礼儀、学校生活の態度がやや横着になっている面がみられる。また、目標に向かって努力する態度の育成のための機会の減少、質の低下がみられる。
人間関係がよりよく構築できない児童の増加（教師と子ども、子ども同士）がみられる。
これまで部活動に入って活動していた高学年の児童の中には、目標（試合）がなくなったり、放課後の時間を持て余したりしているように感じられる児童が見受けられる。
土日両日に活動があることや社会体育がどうしても終わる時間が遅く、子どもが疲れていることがある。
「部活動の先生」という存在がなくなることで、学級中心のまとまりになってしまっていると感じる。部活動を通しての教育、仲間づくりがなくなったこと。愛校心、学校の仲間を感じる機会の減少。
◎総合運動部について
学校は総合運動部のみというのが定着している。週1回ではあるが、いろいろな種目の運動を楽しみながら活動している。今まで部活動に入っていなかった子どもたちが総合運動部に入っている。
家庭環境により地域のクラブに入れない子どもの受け皿を、総合運動部としている。
総合運動部では外部の専門的な知識をもった指導者に指導されるため技術面でも、子どもの意欲に関しても高い伸びを感じる。
入部希望者は毎年度多いので、（総合型スポーツクラブに入るのではなく）学校の部活動で軽く身体を動かして運動したいという欲求が高いことを感じる。

問26 保護者からの相談などの対応について気づいたことを教えてください。（記述）

◎生徒指導面の相談について
クラブ内での児童同士の人間関係のもつれや練習時間の相談など教職員に対応を求められることもあるが、対応が非常に難しくなった。
活動中の子ども同士のもめごとについて、時々、保護者から担任に相談がある。担任が子どもに事情を聴き、解決を促している。子どものことなので対応しているが、どこまで学校が介入すべきか考えて対応している。
学校生活に目標が持てず、不登校傾向になる。部活がなくなって勉強しなくなった。親の言うことを聞かなくなった。友だちができない等の相談が増えている。
学校外の部活内の問題を学校に相談し解決を求めるケースの増加。部活動ではなくクラブチームに所属することによる保護者の金銭や送り迎えの負担。
移行期は相談等もあったようだが、現在は特になし
ここ2年間で部活動の相談を受けたことはない。部活動に関する相談や対応は減少しており、教員の負担軽減にはなっていると思います。
◎運営面の相談について
加入する児童の減少でチームスポーツが成り立たなくなっていること等、保護者やスポーツクラブからの相談があった。
施設の利用方法や備品の取り扱いについて曖昧なところがあり（例えば、学校で購入したものなのか部活で購入したものなのか）、対応に困るところがあった。
時間帯が遅くなること、金銭的な負担が増えること、送り迎え見守りなど負担が増えることについての相談があったら、すべて地域スポーツの方に対応していただいている。
小体連の大会だけ学校で参加したいという要望がある。しかし、学校としては感染予防のため大会等は参加しない方針である。個人単位での参加は難しいのか。
地域に移行することを検討する中で、保護者が指導者の確保、運営費について困っておられることが分かった。
練習が始まるまでの待機場所と見守りについて検討したことがある。
◎加入方法について
「地域の社会体育に入るにはどうしたらよいか」のお尋ねが多い。チラシの配布や入会案内のポスターを掲示している。

問27 学校施設の使用割り振りや用具等の使用・管理について気づいたことを教えてください。（記述）

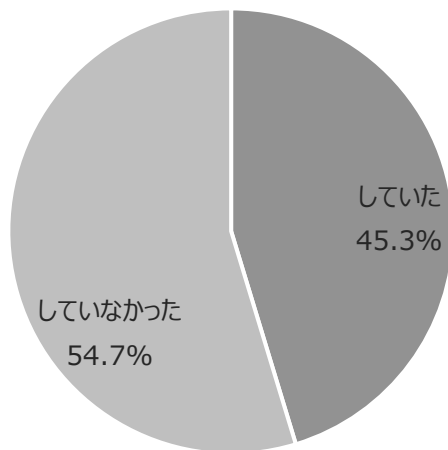
◎施設の使用について
学校行事関係で、施設の使用について競合することがある。施設の割り振りについては、教頭が担当している。月に一回練習計画とともに使用願を提出いただいている。割り振りについて、現時点では大きな問題はないが学校行事や児童育成クラブの活動や学校の日課に支障がないように注意を払う必要がある。
外部のスポーツクラブ、地域のスポーツクラブ、中学校の部活動など、体育館を中心に多くの施設利用があるが、鍵の返却などが遅れ、教育活動に支障をきたすようなことが、年に数回ある。その都度、各団体に話をしていくが、指導者の失念等で時折そういったことが起きているのが現状である。
施設使用に関して、社会体育（クラブチーム）の利用希望が増えており、部活動から移行したチーム、廃部後に立ち上がった地域のクラブチーム、その他のクラブチームなど多く中から使用許可の判断をしなければならなくなったこと。
雨の日などの練習あるなしの調整が多少難しい、天気によって活動場所が変わるため、急に申請に来られることがあった。体育館や運動場の借用事務について、事務職員の負担が大きいと感じる。
秋から冬にかけて（照明等の管理について等）練習時間について相談があった。コロナ禍で使用できないときが心苦しかった。
土日に運動場を使用されるクラブがあり、運動場に子どもが自由に使えないという一面もある。
各クラブがルールを守って行っている。野球部が体育館での練習中にガラスを割ることがあった。早急にクラブの方で対処していただいたが、指導者が来ていない時間で保護者のみの時間だったので、難しさを感じた。
課題としては、学校の砂を一部、グラウンドの整備に使われたことがあり、砂場の砂を補充したことがあった。また、サッカーゴール等が動かされ、もとに戻されていないことや安全のために固定する杭を打っていないなど、使用後の整備が不十分の時もある。
社会体育に移行し、ごみの持ち帰り徹底されない。ひどい時には運動場にたばこの吸い殻が入ったビンが放置してあることもある。大会が重なり、運動場の割り振りが大変になった。飴の包み紙などが、体育館周辺に落ちていることがあり、クラブの指導者に注意することがあった。マナーが問題である。
総合運動部は学校のプールを使用するため、夏季休業中や土日にもプールの管理や維持をしなければならず、人員面でも費用面でも負担が大きいと感じる。
使ったらいけないわけではないが、放課後や休日に学校のグラウンドが空いている状態のため、特定の地域スポーツクラブが独占して使用している。
スポーツ振興課の予約で使用の管理できている。
◎用具の管理について
以前の運動部活動の道具が運動場の倉庫に残ったままで、撤去できない現状にある。
本校の児童だけで活動しているクラブには学校用具も積極的に提供して良いと感じている。
用具の管理は難しい。器楽部は特に置き場所をどうするか？学校管理とするのは、筋がおかしいし、外に持って行ってもらうのは、現実的ではない。
地域スポーツの用具を使わせてもらうこともある。管理は、地域スポーツのほうでしていただいているので助かっている。
チームによっては道具を大切に扱わないクラブも見られます。指導者の指導がまちまちなのが気になります。
用具の管理については各社会体育の責任で行っているが、管理場所は学校と相談して決めている。
体育の授業では行わない競技の体育館のコートのラインが消えかかっている、新しく引き直して欲しいとの相談があった。委員会施設課に相談したところ、学校予算で対応して欲しいとのことだった。7～8万円かかるという事で大変苦慮している。クラブにお願いして、ビニールテープで対応してもらっている。

問28 その他、小学校部活動の地域移行に伴い、現在課題に感じていることや、小学校部活動のあり方についてお考えのことがあれば教えてください。（記述）

◎現在の課題
「部活動の地域移行」と「部活動の社会体育化」の違いを明確にしておく必要があると思う。また、育成クラブを利用するのと同じ感覚で保護者から要望があるので、総合運動部のあり方を検討してほしい。
保護者の中には、地域活動でトラブルが発生した際に、その解決を学校に求める可能性がある。
児童はスポーツをしたい気持ちがあっても受け皿がそばにないこと。経済的・地理的（家庭環境）に余裕のある児童とそうでない児童の格差が広がっていることが課題である。（小学生の児童やその保護者にとっては、放課後学校で行われる部活動はとてめえがたいものであると思うのも事実である。）
職員の働き方改革や負担軽減という視点からは、とても意義あることだと考える。しかし、部活動が学校から離れたことによって運動から離れた子どもがいることも考えられるため、子どもの体力という視点からは、不安が残る。小体連主催のスポーツ大会にも参加が難しくなり、運動の機会を保障するような活動（教科体育の充実、学校での体育的活動の検討）を模索する必要があるように思う。
地域に総合型地域スポーツクラブがあるので、互いに協力していける。学校で陸上教室を開催する際には、指導者派遣をしてもらって助かっている
部活動が果たしてきた役割を補完できていない面が多いと感じている。もう少し、部活動のプラスの面や、現在でも部活動を頑張りたいという教師がいることも考えていただけないかと思う。働き方改革に反対しているわけではないので、両立できる道を探る必要があるのではないかと感じている。社会的な体制が整っていない中で移行したので、混乱している面がある。
文化的な部活動がなくなり、地域の文化的行事への出場がなくなった。地域とのつながり、また、情操教育に関して地域の方からの声をいただくことがある。学校の音楽鑑賞会等を地域の方にも見ていただくなど、コロナ禍の状況をしっかりと考えながら、実施していく必要があると感じている。
土日の活動時間が長時間になり、疲れを月曜日に残してくることがあるが、活動については口を出しづらい。同様に夜間解放の19時以降に活動する児童については、活動を終えて帰宅する時刻も遅くなることから生活面や健康面に課題を感じることがある。
◎小学校部活動の在り方
学校の放課後からの部活動という流れの中でしかスポーツや文化活動に参加できない子どもたちが一定数いるのも事実である。教員に負担のない範囲(勤務時間内、週1回、1時間程度の練習、基本的に試合参加などは行わない)で、細々とでも「受け皿」として部活動はあってもよいと考えている職員もいる。
総合運動部は原則設置としてあるが、設置していない学校もあるようである。そのあたりをはっきりとしないと、働き方改革が進んでいないと考えられる。教職員は異動が伴うので、以前の勤務校で何も部活動がないが、異動先では総合運動部があるとすると不公平感が生まれる。また、原則設置としているのなら、その調査もされていると思うので、整備していただきたいと思う。
小学校部活動は、地域移行した方がよいのではないかな。小学校では、学校生活の中で、日課や活動など創意工夫しつつどの子どもも運動に親しむ機会や時間をつくることで、子どもは運動に親しみ楽しさを味わうことができる。（朝の活動・業間の時間の確保・昼休みの外遊びの励行・体育委員会主催の〇〇大会など）
子ども達の最低限の運動量の確保は、本来体育などで行われるべきであって部活動で補おうという考えが間違っていると思います。運動量の確保以外で総合部活動をさせるのであれば、その理由がわかりません。
スポーツ指導による教育的効果は高いので、今後も、スポーツ指導に情熱をもっておられる教職員が、地域の総合運動部等で指導できる体制づくりを推進してほしい。
学校の教育活動とは切り離し、教職員で部活動に関わりたい人は、勤務終了後関われるような職務上の配慮や施策を推進するなど、教育委員会内でできることとともに、午後7時前にも社会体育が学校施設が使えるようにするなど、行政間（スポーツ振興課と教育委員会事務局）が今以上に強く連携をしていく必要があると感じます。

問29 お子さんが小学生の時にサッカー部や吹奏楽部など、単一種目の部活動に参加していましたか。(総合運動部は除く)

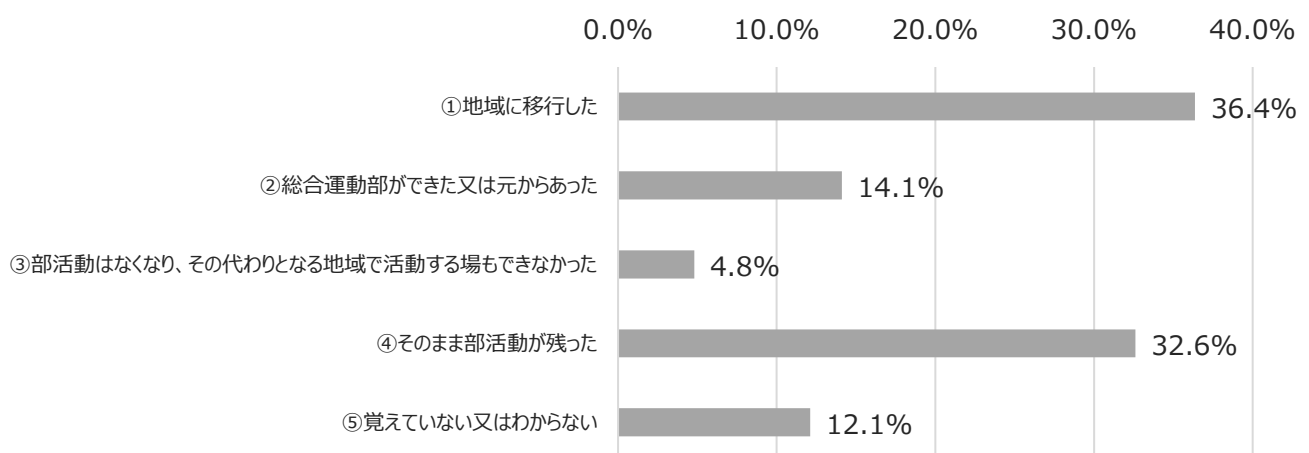
アンケートの対象者が小学校に在籍時、既に地域移行した小学校もあったため、「部活動に参加していなかった」の割合の方が高かった。



	中・保護者	割合
していた	3,162	45.3%
していなかった	3,817	54.7%
計	6,979	

問30 平成29年度から令和元年度にかけて、多くの小学校で部活動を地域での活動に移行しましたが、お子さんが小学校に在学している間に、参加していた部活動が地域の活動に移行しましたか。

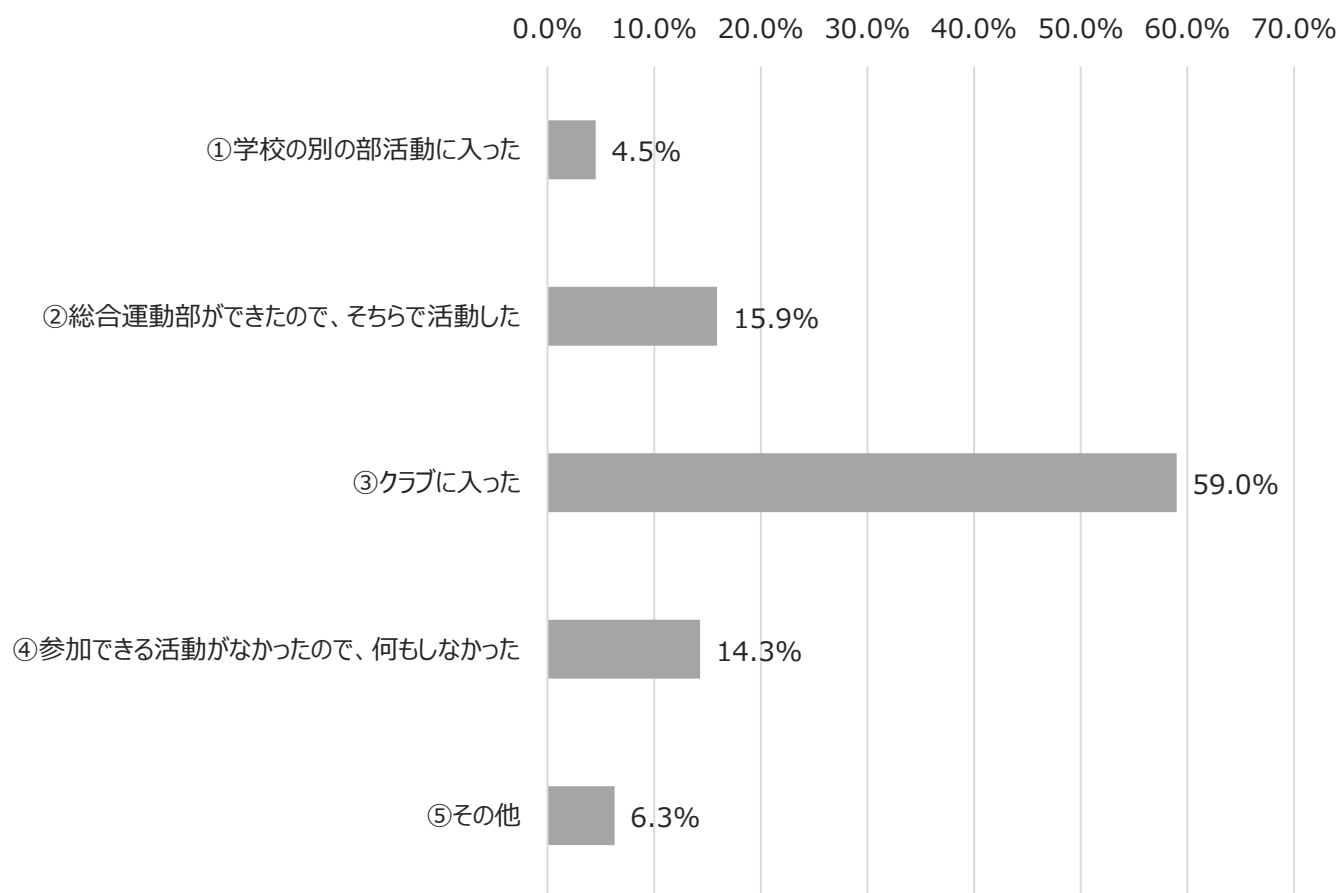
小学校在学時に部活動に所属していた家庭のうち、「地域に移行した」が最も多く、「そのまま部活動が残った」が続いている。



	中・保護者	割合
①地域に移行した	1,150	36.4%
②総合運動部ができた又は元からあった	446	14.1%
③部活動はなくなり、その代わりとなる地域で活動する場もできなかった	152	4.8%
④そのまま部活動が残った	1,031	32.6%
⑤覚えていない又はわからない	383	12.1%
計	3,162	

問31 小学校部活動の地域移行によって、お子さんの活動の状況はどうになりましたか。

地域移行に伴う、子どもの活動状況の変化については「クラブに入った」が約6割と最も多く、続いて「総合運動部ができたので、そちらで活動した」、「参加できる活動がなかったので、何もしなかった」と続いている。

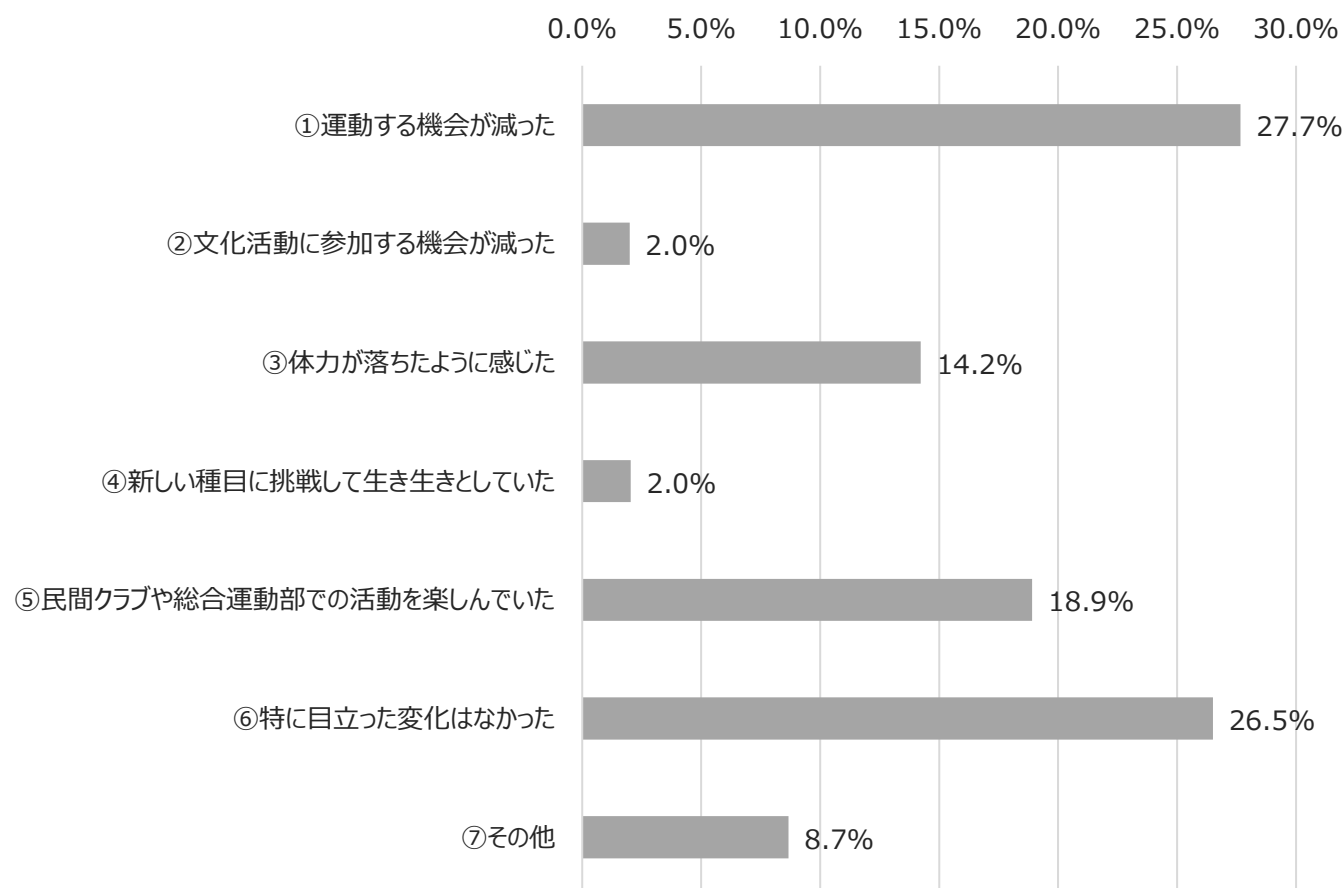


	中・保護者	割合
①学校の別の部活動に入った	79	4.5%
②総合運動部ができたので、そちらで活動した	278	15.9%
③クラブに入った	1,031	59.0%
④参加できる活動がなかったので、何もしなかった	250	14.3%
⑤その他	110	6.3%
計	1,748	

問32 部活動がなくなった後のお子さんについて、どのように感じましたか。

【複数回答可】

地域移行後の子どもの変化については、「運動する機会が減った」が最も多く、「特に目立った変化はなかった」、「民間クラブや総合運動部での活動を楽しんでいた」が続いている。



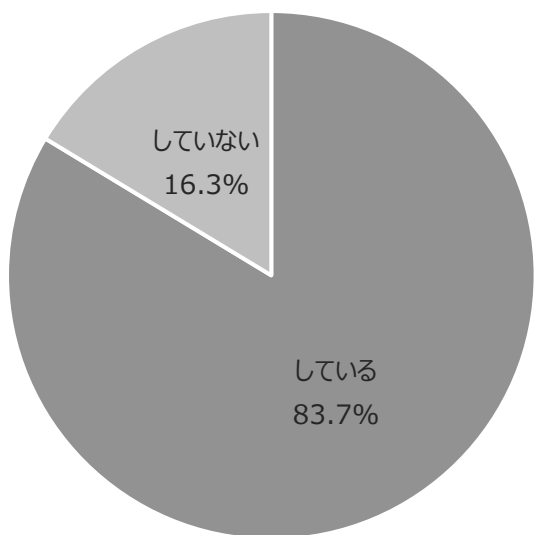
	中・保護者	割合
①運動する機会が減った	597	27.7%
②文化活動に参加する機会が減った	43	2.0%
③体力が落ちたように感じた	307	14.2%
④新しい種目に挑戦して生き生きとしていた	44	2.0%
⑤民間クラブや総合運動部での活動を楽しんでいた	408	18.9%
⑥特に目立った変化はなかった	572	26.5%
⑦その他	187	8.7%
計	2,158	

Ⅳ 小中学校教職員へのアンケート

問33 部活動を担当していますか（小学校は総合運動部を除く。）

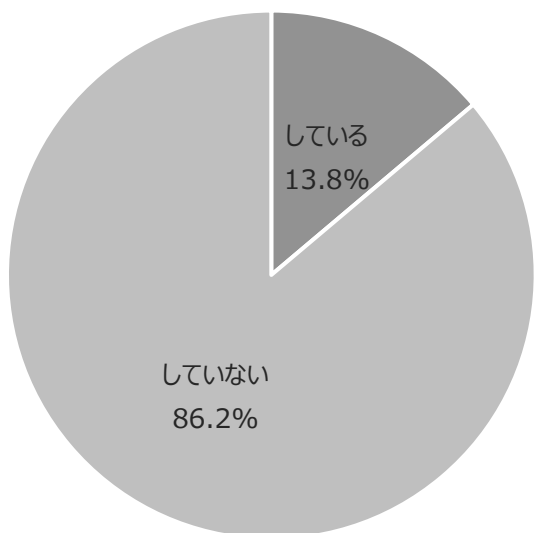
中学校では約8割の教員が、小学校では約1割の教員が部活動を担当していると回答した。

（中学校）



	中・教員	割合
している	763	83.7%
していない	149	16.3%
計	912	

（小学校）

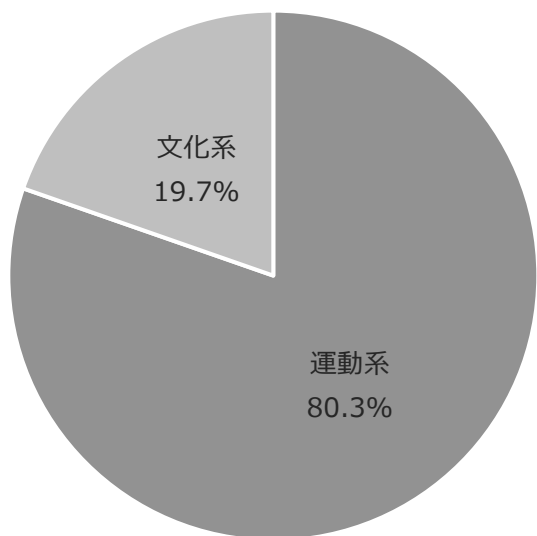


	小・教員	割合
している	217	13.8%
していない	1,350	86.2%
計	1,567	

問34 担当している部は何ですか。（小学校は総合運動部を除く。）

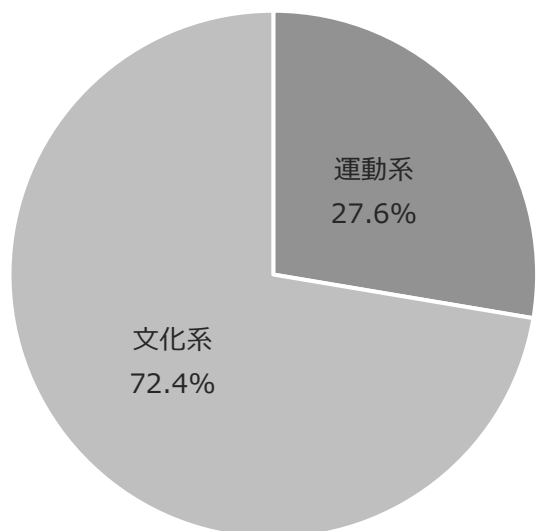
部活動を担当している教員のうち、中学校では約8割が運動系、約2割が文化系、小学校では約3割が運動系、約7割が文化系を担当していると回答した。

（中学校）



	中・教員	割合
運動系	613	80.3%
文化系	150	19.7%
計	763	

（小学校）

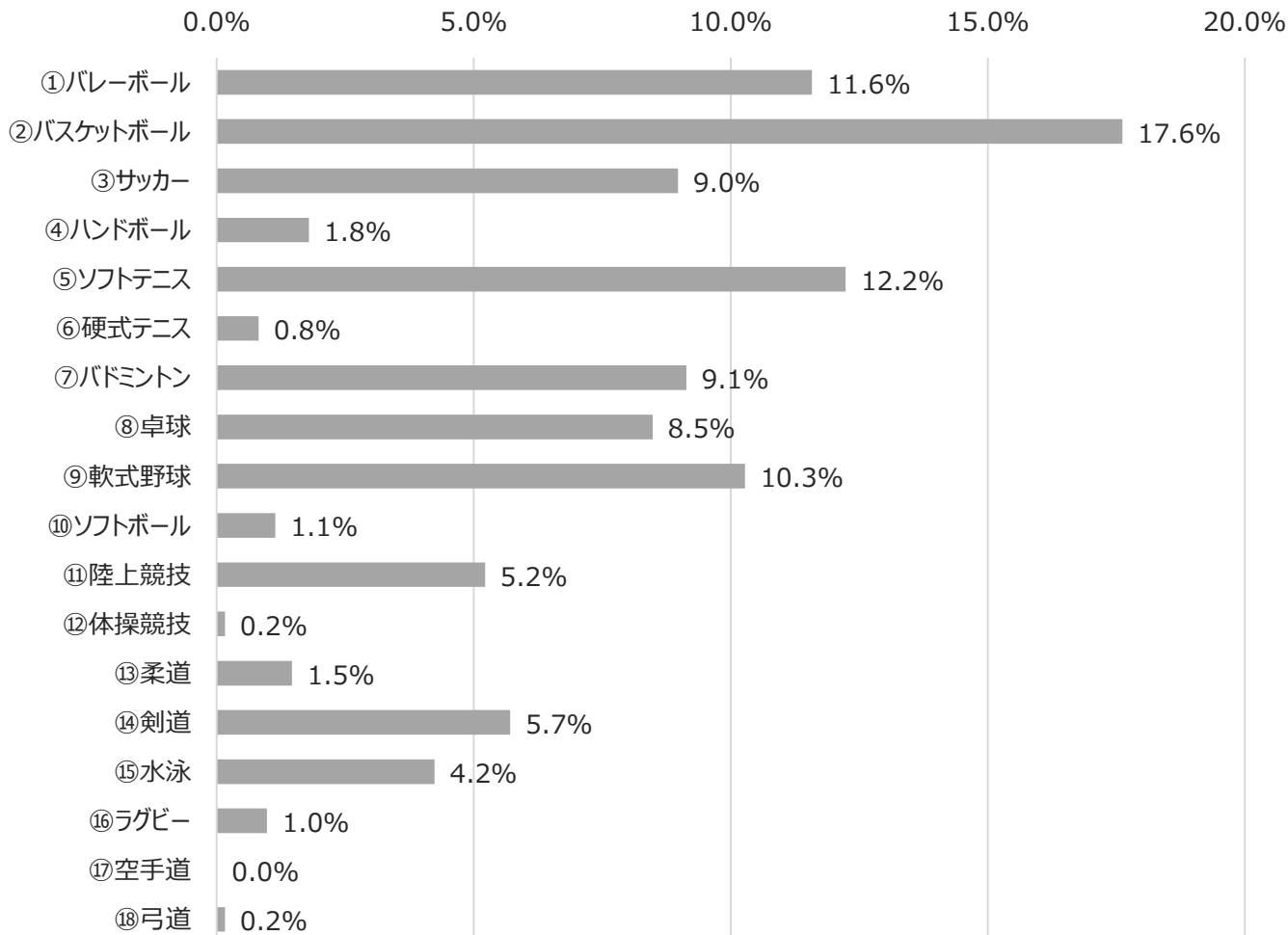


	小・教員	割合
運動系	60	27.6%
文化系	157	72.4%
計	217	

問35 担当している部の種目を教えてください。

中学校教員が担当する運動部の種目は、「バスケットボール」が最も多く、「ソフトテニス」、「バレーボール」が続いている。

(中学校 運動系)

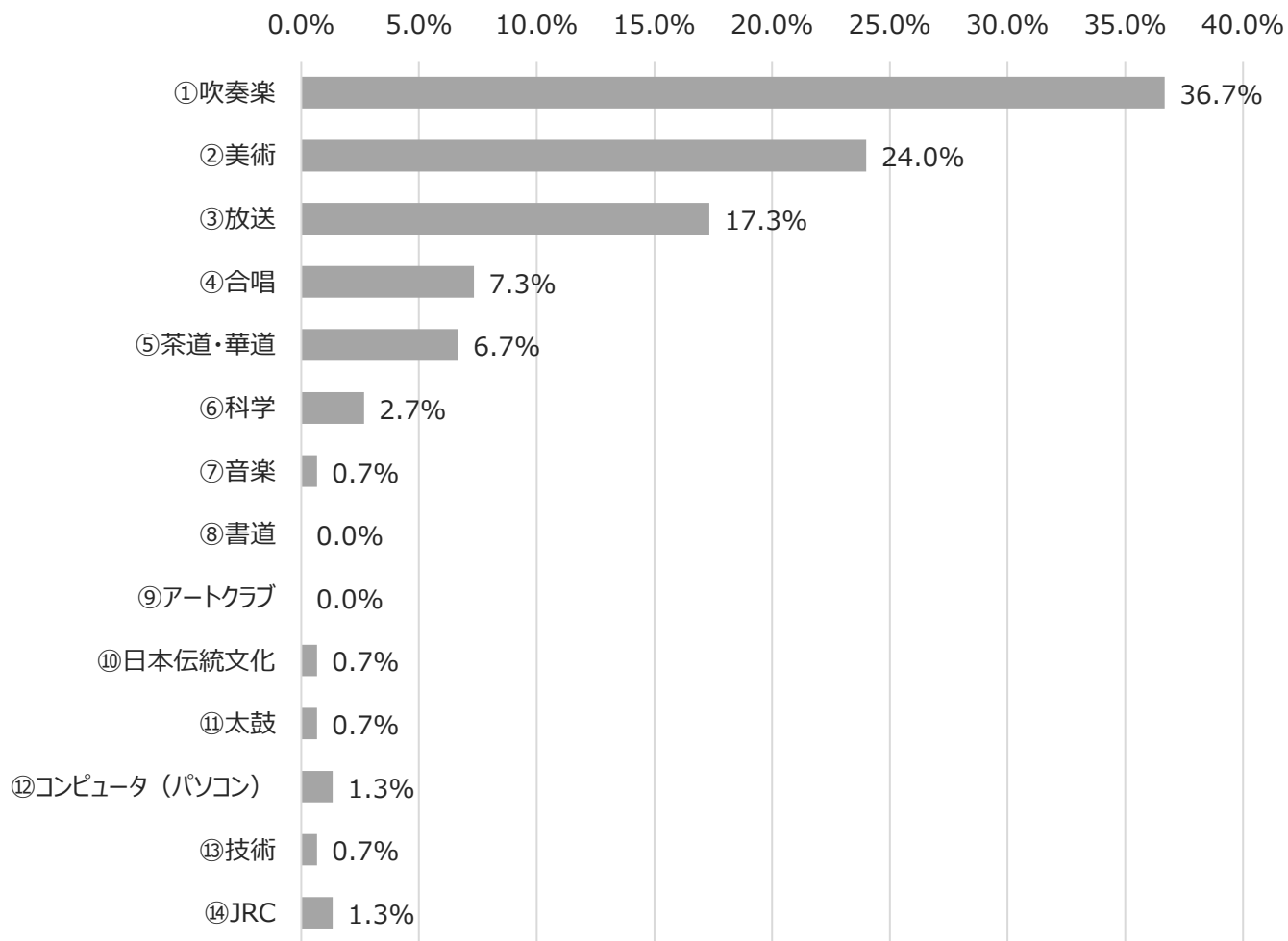


	中・教員	割合
①バレーボール	71	11.6%
②バスケットボール	108	17.6%
③サッカー	55	9.0%
④ハンドボール	11	1.8%
⑤ソフトテニス	75	12.2%
⑥硬式テニス	5	0.8%
⑦バドミントン	56	9.1%
⑧卓球	52	8.5%
⑨軟式野球	63	10.3%
⑩ソフトボール	7	1.1%

	中・教員	割合
⑪陸上競技	32	5.2%
⑫体操競技	1	0.2%
⑬柔道	9	1.5%
⑭剣道	35	5.7%
⑮水泳	26	4.2%
⑯ラグビー	6	1.0%
⑰空手道	0	0.0%
⑱弓道	1	0.2%
計	613	

中学校教員が担当する文化部の種目は、「吹奏楽」が最も多く、「美術」、「放送」が続いている。

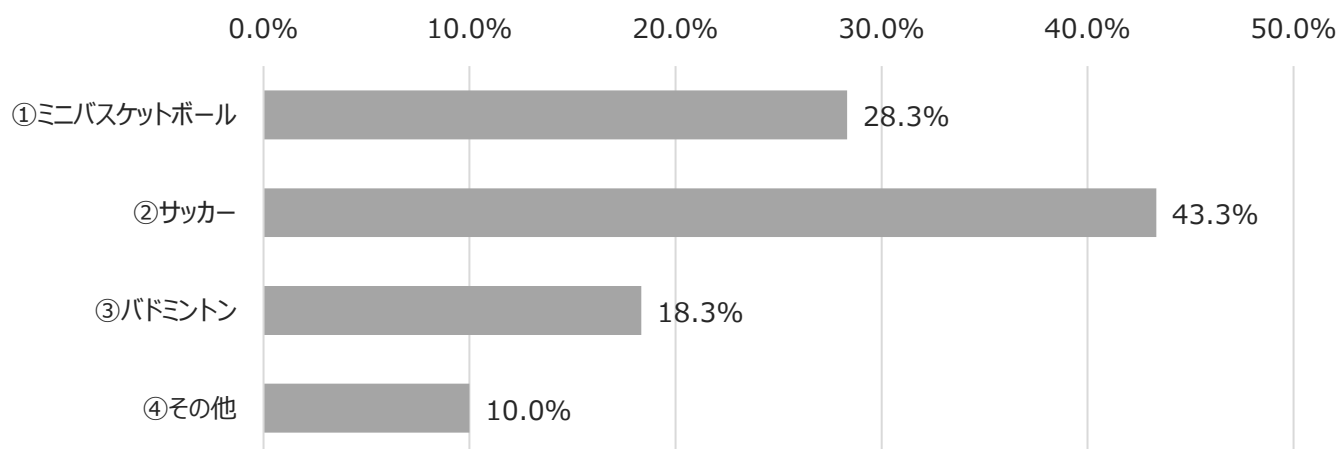
(中学校 文化系)



	中・教員	割合
①吹奏楽	55	36.7%
②美術	36	24.0%
③放送	26	17.3%
④合唱	11	7.3%
⑤茶道・華道	10	6.7%
⑥科学	4	2.7%
⑦音楽	1	0.7%
⑧書道	0	0.0%
⑨アートクラブ	0	0.0%
⑩日本伝統文化	1	0.7%
⑪太鼓	1	0.7%
⑫コンピュータ (パソコン)	2	1.3%
⑬技術	1	0.7%
⑭JRC	2	1.3%
計	150	

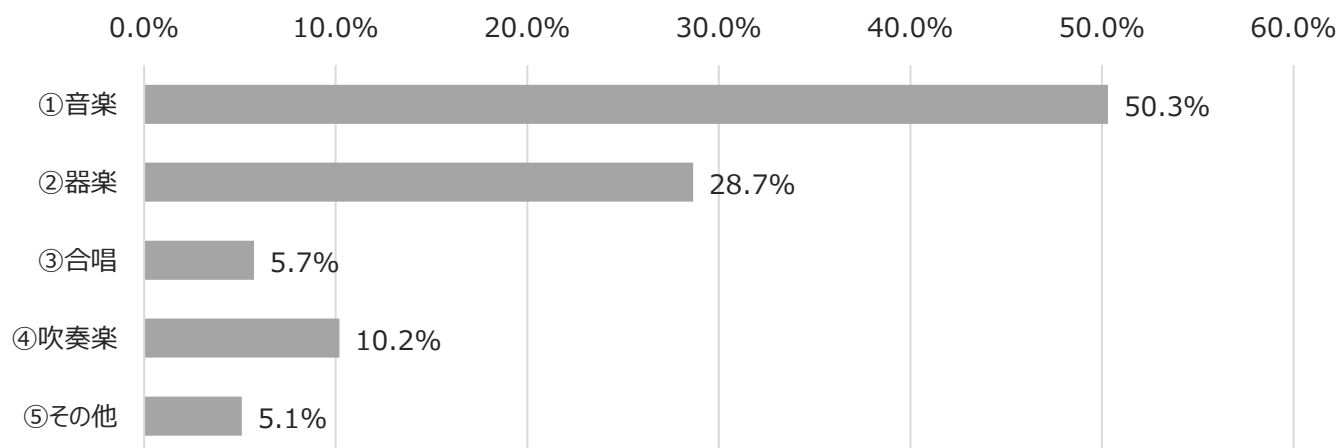
小学校教員が担当する運動部の種目は、「サッカー」が最も多く、「ミニバスケットボール」、「バドミントン」が続いている。文化部の種目は、「音楽」が最も多く、「器楽」、「吹奏楽」が続いている。

(小学校 運動系)



	小・教員	割合
①ミニバスケットボール	17	28.3%
②サッカー	26	43.3%
③バドミントン	11	18.3%
④その他	6	10.0%
計	60	

(小学校 文化系)

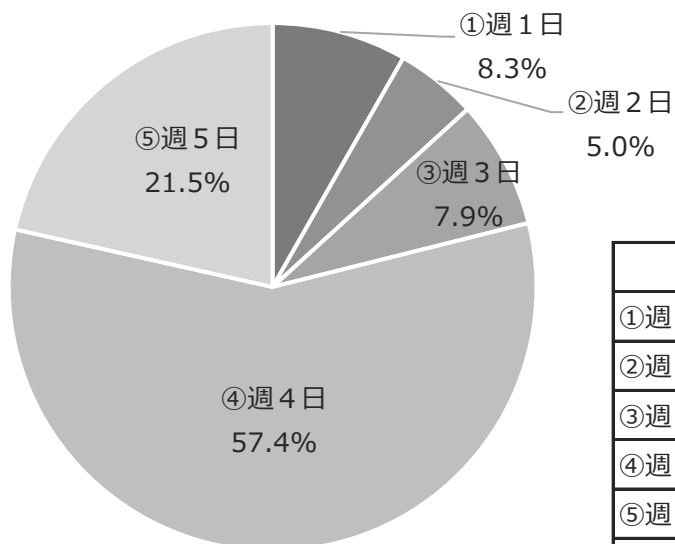


	小・教員	割合
①音楽	79	50.3%
②器楽	45	28.7%
③合唱	9	5.7%
④吹奏楽	16	10.2%
⑤その他	8	5.1%
計	157	

問36 平日の部活動従事日数を教えてください。

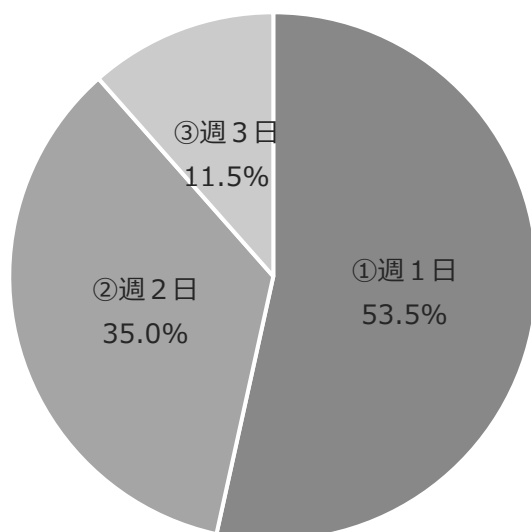
平日の部活動従事日数は、中学校では「週4日」が約6割と最も多く、「週5日」、「週1日」が続いている。小学校では、「週1日」が約5割と最も多く、「週2日」、「週3日」が続いている。

(中学校)



	中・教員	割合
①週1日	63	8.3%
②週2日	38	5.0%
③週3日	60	7.9%
④週4日	438	57.4%
⑤週5日	164	21.5%
計	763	

(小学校)

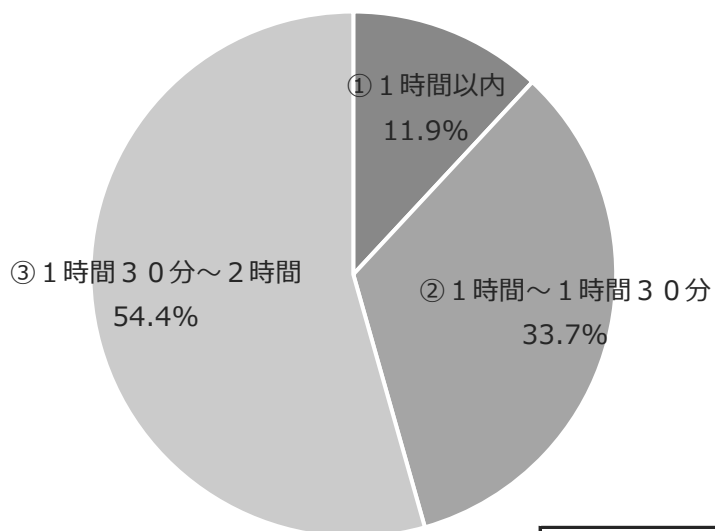


	小・教員	割合
①週1日	116	53.5%
②週2日	76	35.0%
③週3日	25	11.5%
計	217	

問37 平日1日当たりの部活動従事時間を教えてください。

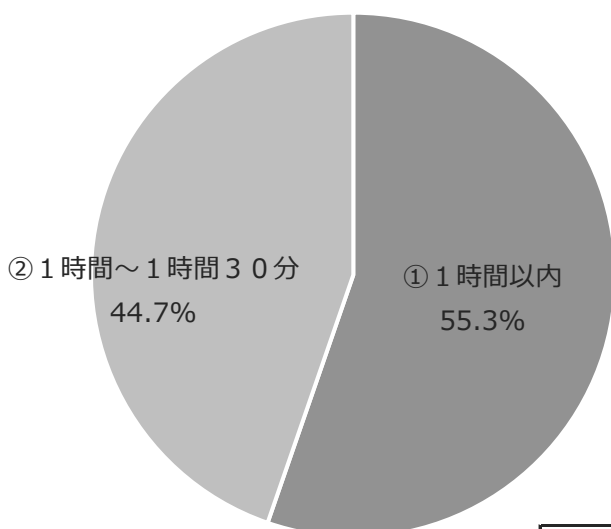
平日1日当たりの部活動従事時間は、中学校では「1時間30分～2時間」が約5割と最も多く、「1時間～1時間30分」、「1時間以内」が続いている。小学校では、「1時間以内」が「1時間～1時間30分」を約10ポイント上回っている。

(中学校)



	中・教員	割合
① 1時間以内	91	11.9%
② 1時間～1時間30分	257	33.7%
③ 1時間30分～2時間	415	54.4%
計	763	

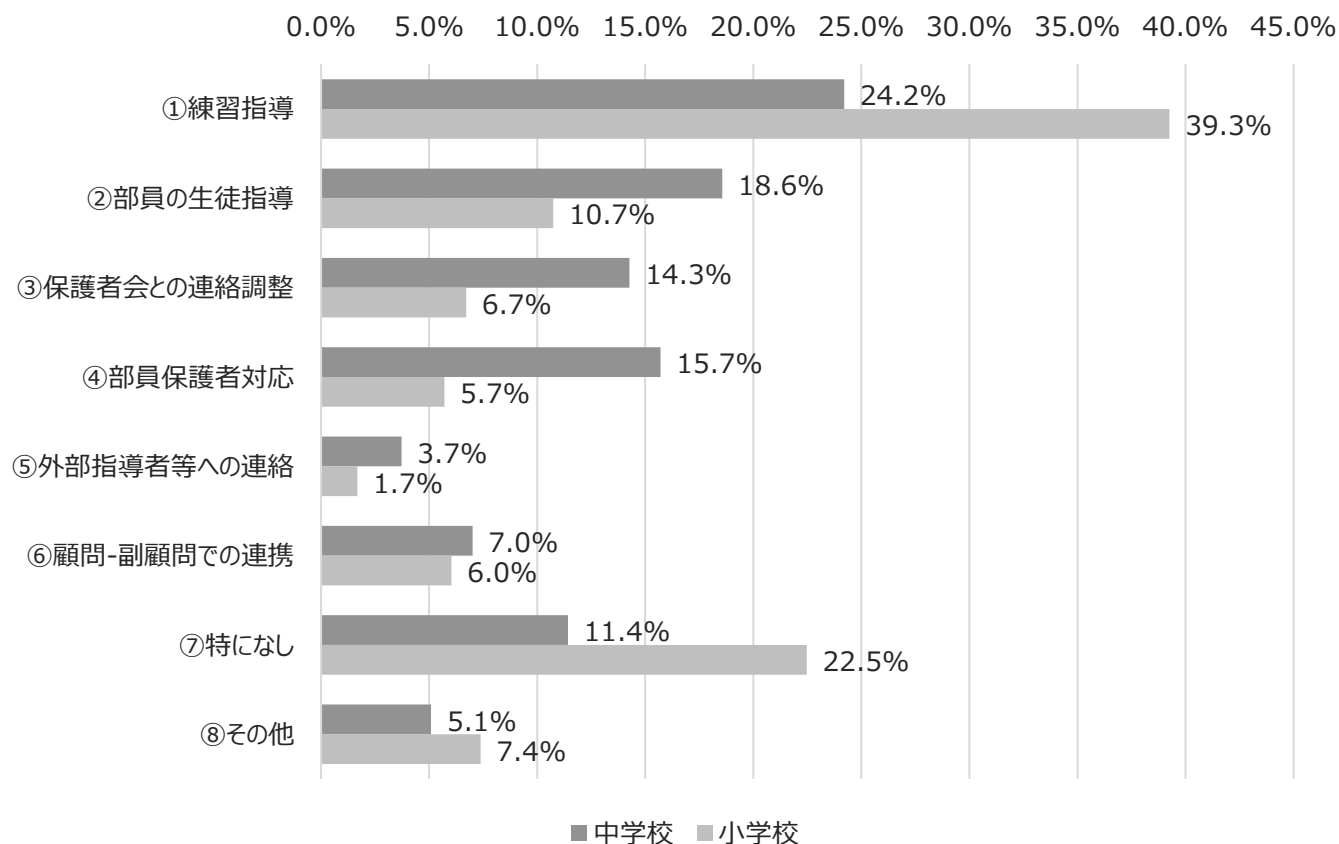
(小学校)



	小・教員	割合
① 1時間以内	120	55.3%
② 1時間～1時間30分	97	44.7%
計	217	

問38 平日の部活動従事業務で負担だと思ふ項目を教えてください。【複数回答可】

平日の部活動従事業務で負担だと思ふ項目については、中学校では「練習指導」が最も多く、「部員の生徒指導」、「部員保護者対応」が続いている。小学校では「練習指導」が最も多く、「特になし」、「部員の生徒指導」が続いている。

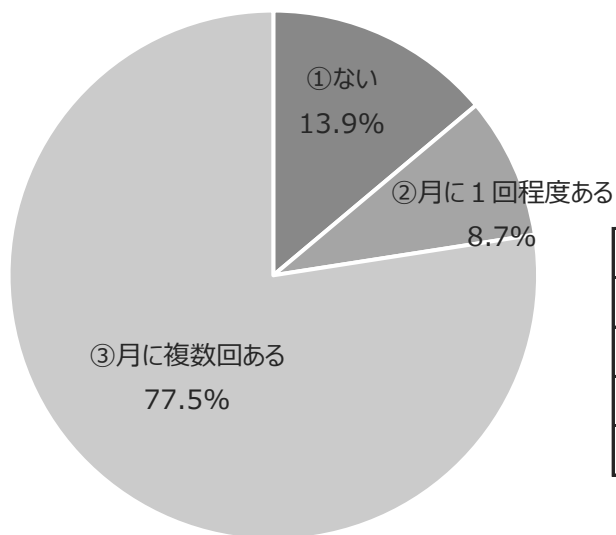


	中・教員	割合	小・教員	割合
①練習指導	390	24.2%	117	39.3%
②部員の生徒指導	299	18.6%	32	10.7%
③保護者会との連絡調整	230	14.3%	20	6.7%
④部員保護者対応	253	15.7%	17	5.7%
⑤外部指導者等への連絡	60	3.7%	5	1.7%
⑥顧問-副顧問での連携	113	7.0%	18	6.0%
⑦特になし	184	11.4%	67	22.5%
⑧その他	82	5.1%	22	7.4%
計	1,611		298	

問39 土日・祝日に部活動に従事することはありますか。

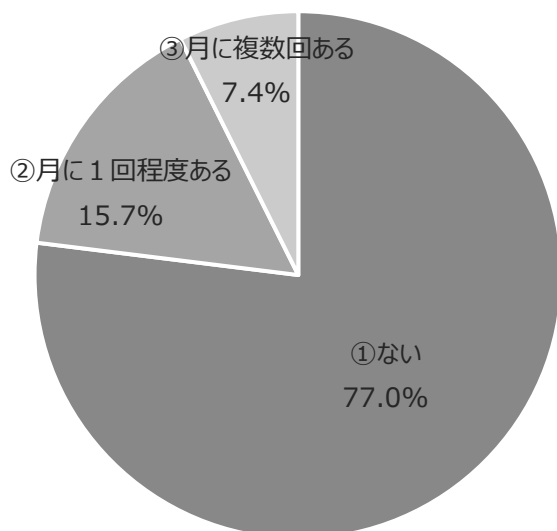
土日・祝日の部活動従事については、中学校では約8割の教員が「月に複数回ある」と回答しており、「ない」と回答した教員は約1割であった。小学校では、約8割の教員が「ない」と回答している。

(中学校)



	中・教員	割合
①ない	106	13.9%
②月に1回程度ある	66	8.7%
③月に複数回ある	591	77.5%
計	763	

(小学校)

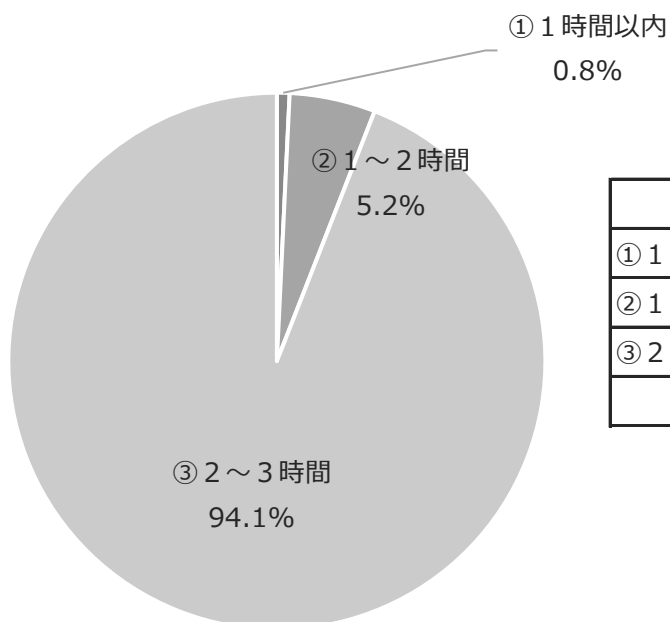


	小・教員	割合
①ない	167	77.0%
②月に1回程度ある	34	15.7%
③月に複数回ある	16	7.4%
計	217	

問40 土日・祝日 1 回の練習指導従事時間を教えてください。

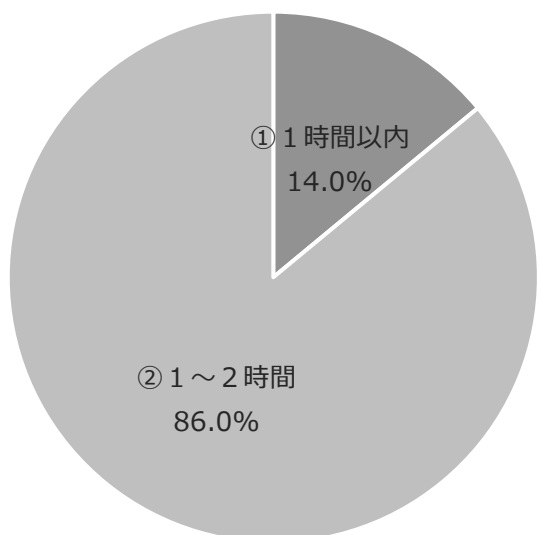
土日・祝日 1 回の練習指導従事時間については、中学校では9割以上の教員が「2～3時間」と回答している。小学校では、8割以上の教員が「1～2時間」と回答している。

(中学校)



	中・教員	割合
① 1 時間以内	5	0.8%
② 1 ～ 2 時間	34	5.2%
③ 2 ～ 3 時間	618	94.1%
計	657	

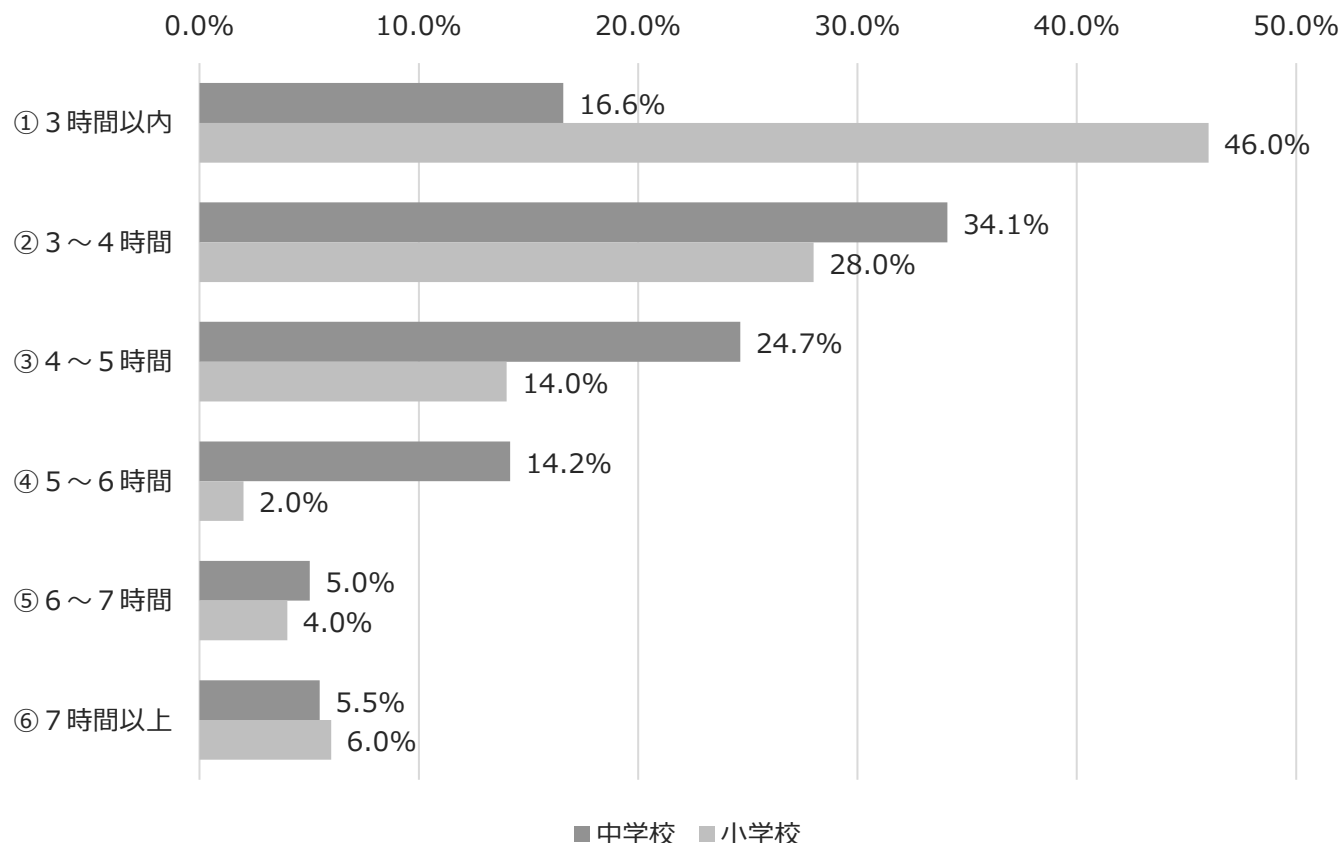
(小学校)



	小・教員	割合
① 1 時間以内	7	14.0%
② 1 ～ 2 時間	43	86.0%
計	50	

問41 土日・祝日 1 回の練習試合や地域行事、合同練習会に要する平均時間を教えてください。

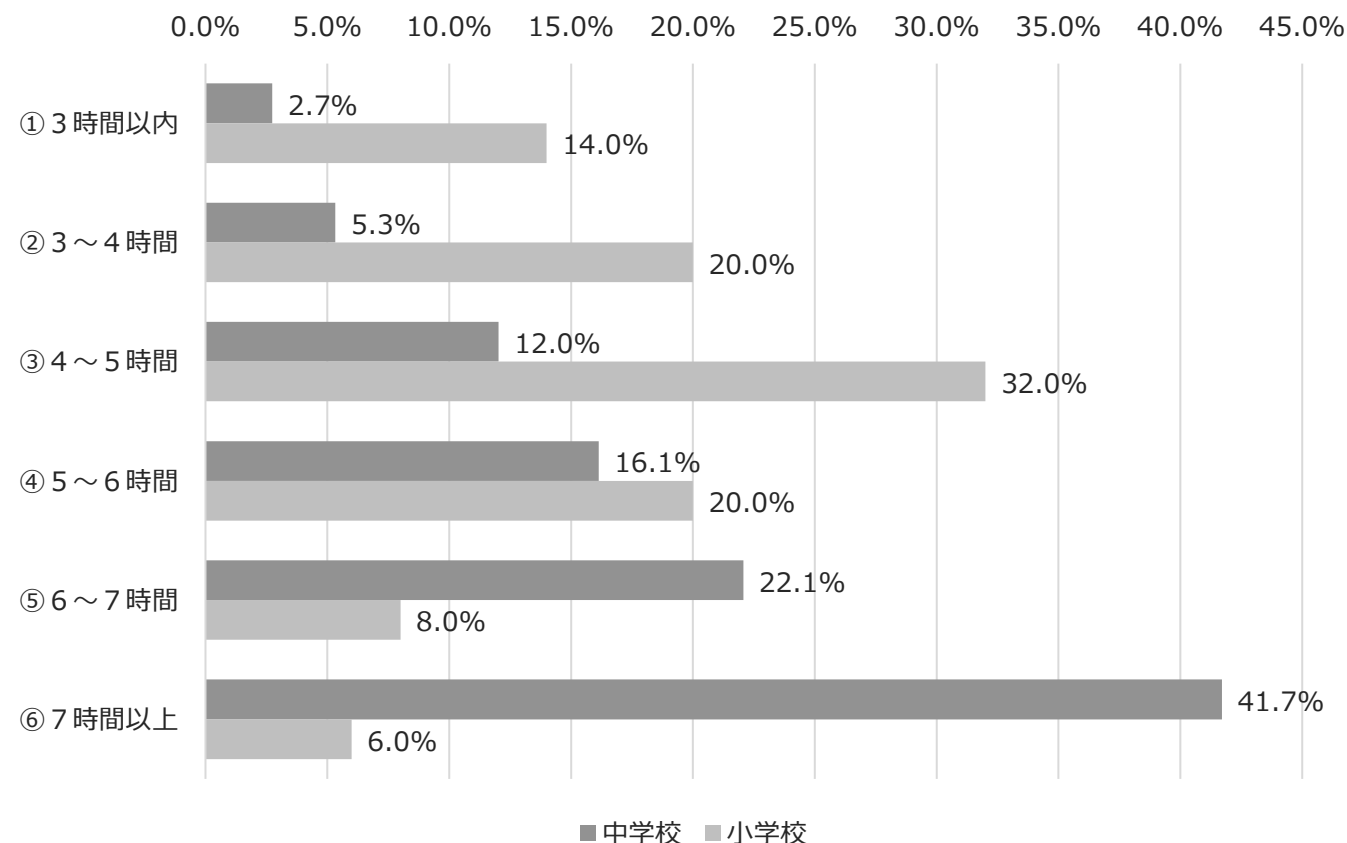
土日・祝日 1 回の練習試合（地域行事）、合同練習会に要する平均時間については、中学校では「3～4時間」が約3割と最も多く、「4～5時間」、「3時間以内」が続いている。小学校では、「3時間以内」が約5割と最も多く、「3～4時間」、「4～5時間」が続いている。



	中・教員	割合	小・教員	割合
① 3時間以内	109	16.6%	23	46.0%
② 3～4時間	224	34.1%	14	28.0%
③ 4～5時間	162	24.7%	7	14.0%
④ 5～6時間	93	14.2%	1	2.0%
⑤ 6～7時間	33	5.0%	2	4.0%
⑥ 7時間以上	36	5.5%	3	6.0%
計	657		50	

問42 土日・祝日 1 回の大会やコンクールの引率に要する平均時間を教えてください。

土日等 1 回の大会（コンクール）引率に要する平均時間については、中学校では「7時間以上」が約4割と最も多く、「6～7時間」、「5～6時間」が続いている。小学校では、「4～5時間」が約3割と最も多く、「3～4時間」、「5～6時間」が続いている。

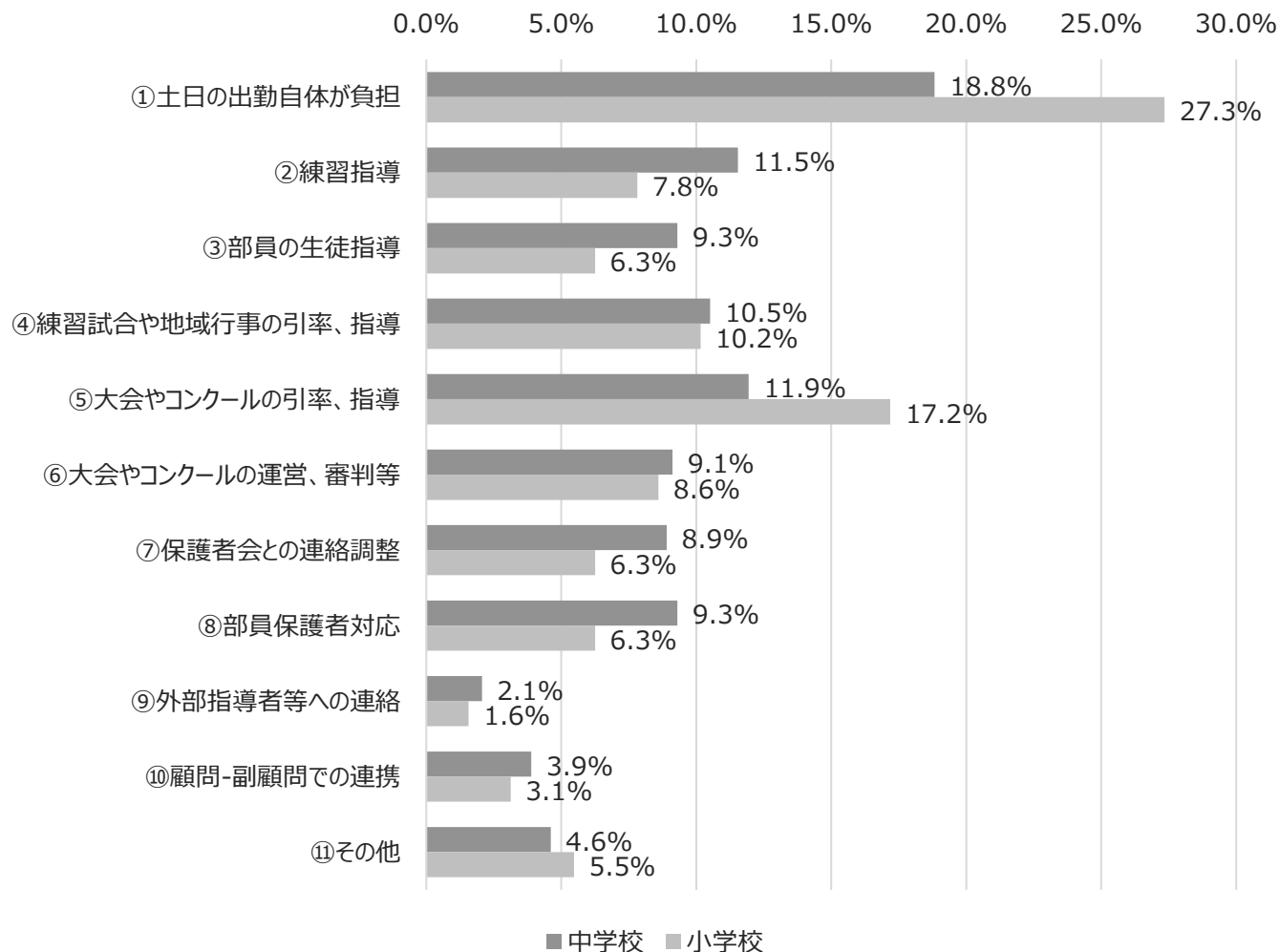


	中・教員	割合	小・教員	割合
① 3時間以内	18	2.7%	7	14.0%
② 3～4時間	35	5.3%	10	20.0%
③ 4～5時間	79	12.0%	16	32.0%
④ 5～6時間	106	16.1%	10	20.0%
⑤ 6～7時間	145	22.1%	4	8.0%
⑥ 7時間以上	274	41.7%	3	6.0%
計	657		50	

問43 土日・祝日の部活動従事業務で負担だと思ふ項目を教えてください。

【複数回答可】

土日等の部活動従事業務で負担だと思ふ項目については、中学校では「土日の出勤自体が負担」が最も多く、「大会やコンクールの引率、指導」、「練習指導」が続いている。小学校では、「土日の出勤自体が負担」が最も多く、「大会やコンクールの引率、指導」、「練習試合や地域行事の引率、指導」が続いている。

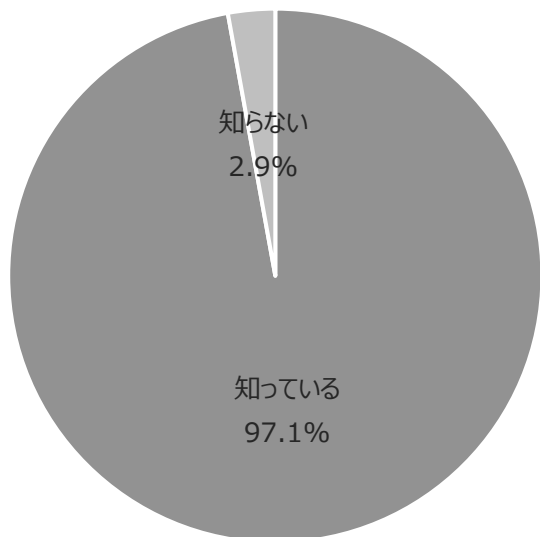


	中・教員	割合	小・教員	割合
①土日の出勤自体が負担	421	18.8%	35	27.3%
②練習指導	258	11.5%	10	7.8%
③部員の生徒指導	208	9.3%	8	6.3%
④練習試合や地域行事の引率、指導	235	10.5%	13	10.2%
⑤大会やコンクールの引率、指導	267	11.9%	22	17.2%
⑥大会やコンクールの運営、審判等	204	9.1%	11	8.6%
⑦保護者会との連絡調整	199	8.9%	8	6.3%
⑧部員保護者対応	208	9.3%	8	6.3%
⑨外部指導者等への連絡	46	2.1%	2	1.6%
⑩顧問-副顧問での連携	87	3.9%	4	3.1%
⑪その他	103	4.6%	7	5.5%
計	2,236		128	

問44 現在、文部科学省・スポーツ庁・文化庁で、中学校の部活動を学校単位の取組から地域単位の取組に移行することが検討されていることを知っていますか。

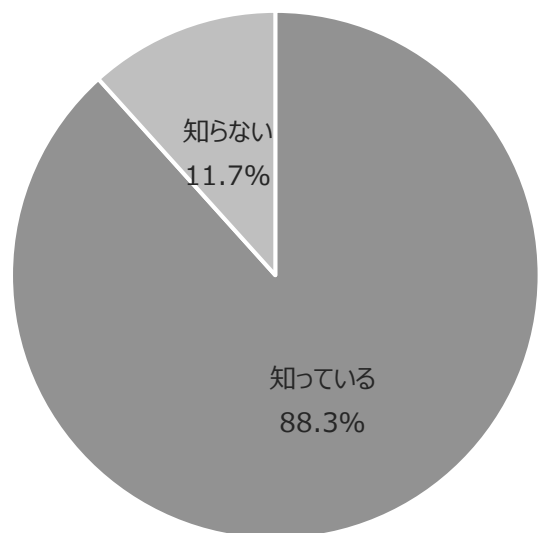
国における部活動改革の検討状況について、中学校の教員はほぼ全員が、小学校の教員も約9割が「知っている」と回答した。

(中学校)



	中・教員	割合
知っている	886	97.1%
知らない	26	2.9%
計	912	

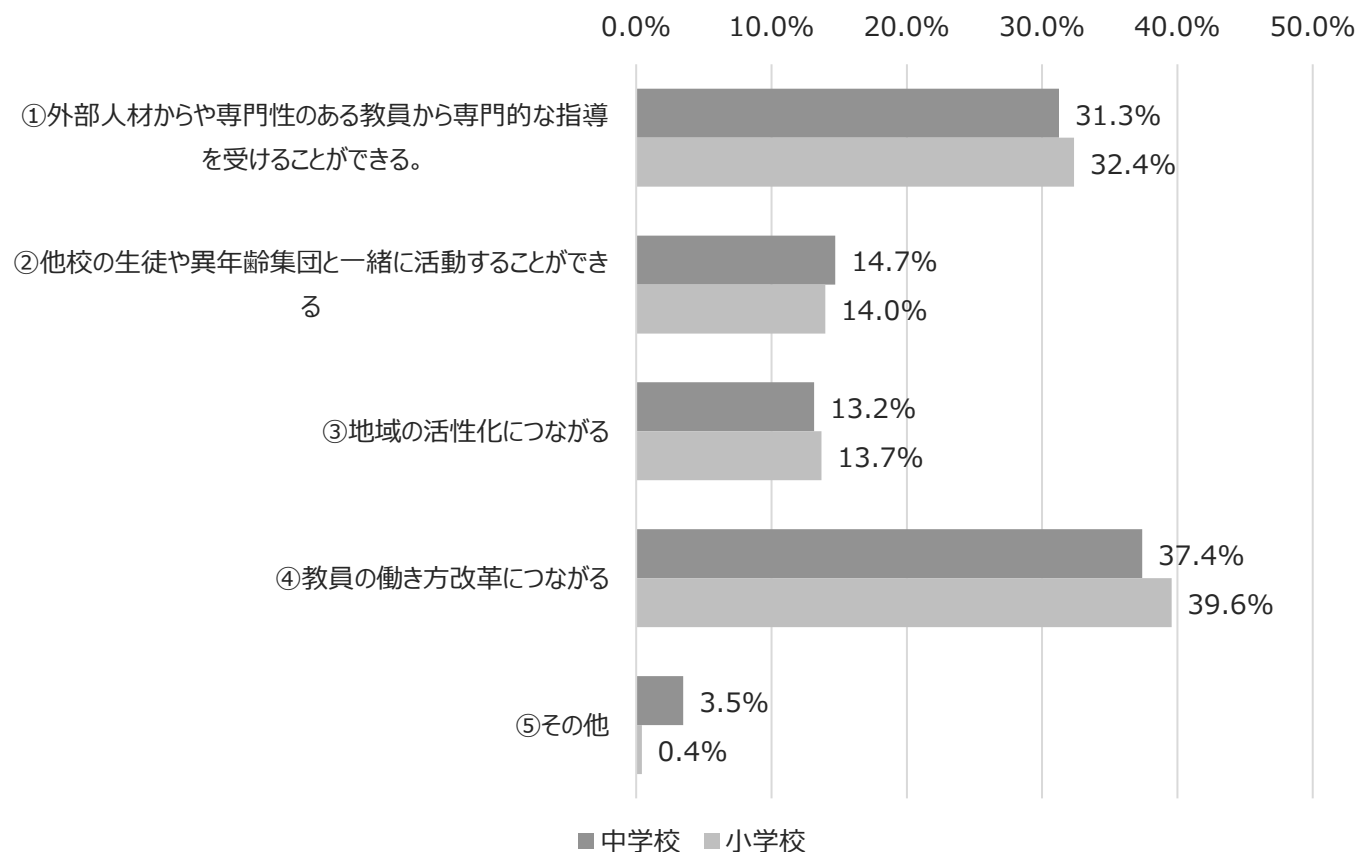
(小学校)



	小・教員	割合
知っている	1,384	88.3%
知らない	183	11.7%
計	1,567	

問45 国では土日の学校部活動を地域移行しようと検討していますが、熊本市では平日を含めて移行することも検討しています。学校部活動を地域での取組に移行するとしたら、どのようなメリットがあると思いますか。【複数回答可】

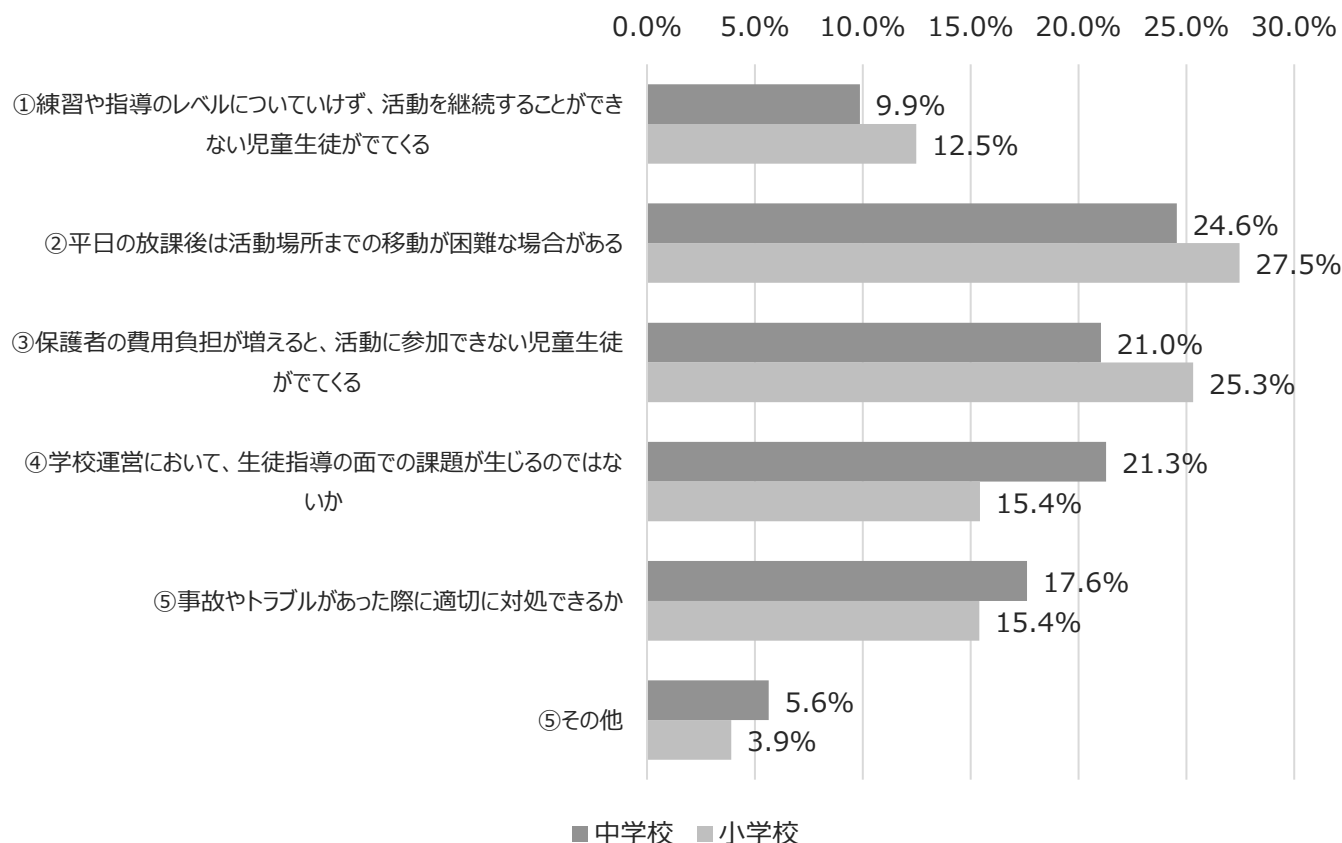
学校部活動を地域での取組に移行する場合考えられるメリットについては、中学校、小学校ともに「教員の働き方改革につながる」が最も多く、「外部人材からや専門性のある教員から専門的な指導を受けることができる」、「他校の生徒や異年齢集団と一緒に活動することができる」が続いている。



	中・教員	割合	小・教員	割合
①外部人材からや専門性のある教員から専門的な指導を受けることができる。	637	31.3%	1,158	32.4%
②他校の生徒や異年齢集団と一緒に活動することができる	300	14.7%	500	14.0%
③地域の活性化につながる	268	13.2%	490	13.7%
④教員の働き方改革につながる	762	37.4%	1,416	39.6%
⑤その他	71	3.5%	15	0.4%
計	2,038		3,579	

問46 学校部活動を地域での取組に移行する場合、どのような課題があると思いますか。【複数回答可】

学校部活動を地域での取組に移行する場合考えられる課題については、中学校、小学校ともに「平日の放課後は活動場所までの移動が困難な場合がある」が最も多い。中学校では、「学校運営において、生徒指導の面での課題が生じるのではないか」、「保護者の費用負担が増えると、活動に参加できない児童生徒がでてくる」が続いている。小学校では、「保護者の費用負担が増えると、活動に参加できない児童生徒がでてくる」、「学校運営において、生徒指導の面での課題が生じるのではないか」が続いている。

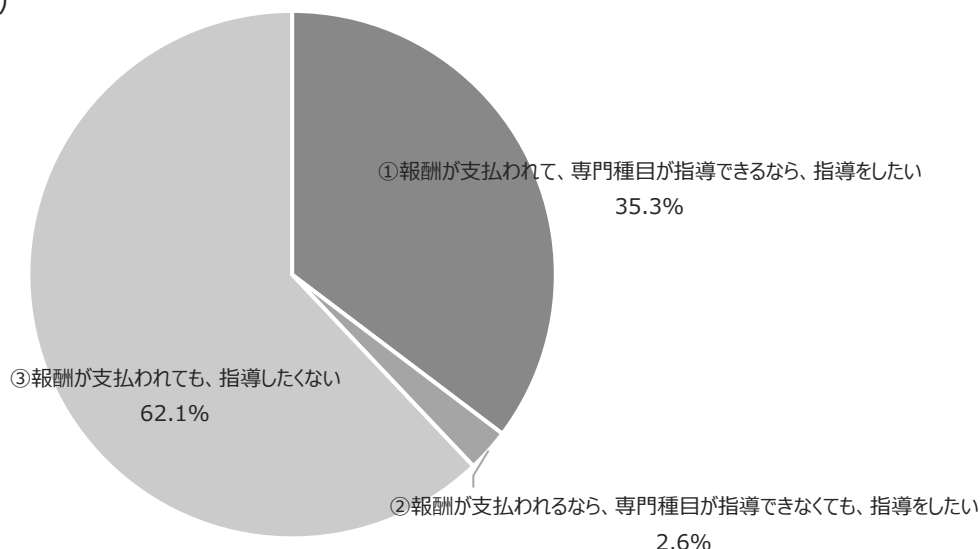


	中・教員	割合	小・教員	割合
①練習や指導のレベルについていけず、活動を継続することができない児童生徒がでてくる	250	9.9%	419	12.5%
②平日の放課後は活動場所までの移動が困難な場合がある	622	24.6%	922	27.5%
③保護者の費用負担が増えると、活動に参加できない児童生徒がでてくる	533	21.0%	850	25.3%
④学校運営において、生徒指導の面での課題が生じるのではないか	539	21.3%	518	15.4%
⑤事故やトラブルがあった際に適切に対処できるか	446	17.6%	517	15.4%
⑤その他	143	5.6%	131	3.9%
計	2,533		3,357	

問47 平日も含め部活動が地域に移行した場合、勤務時間外に兼職兼業が認められ、報酬が支払われる報酬が支払われるなら、地域移行後も指導したいと思いますか。

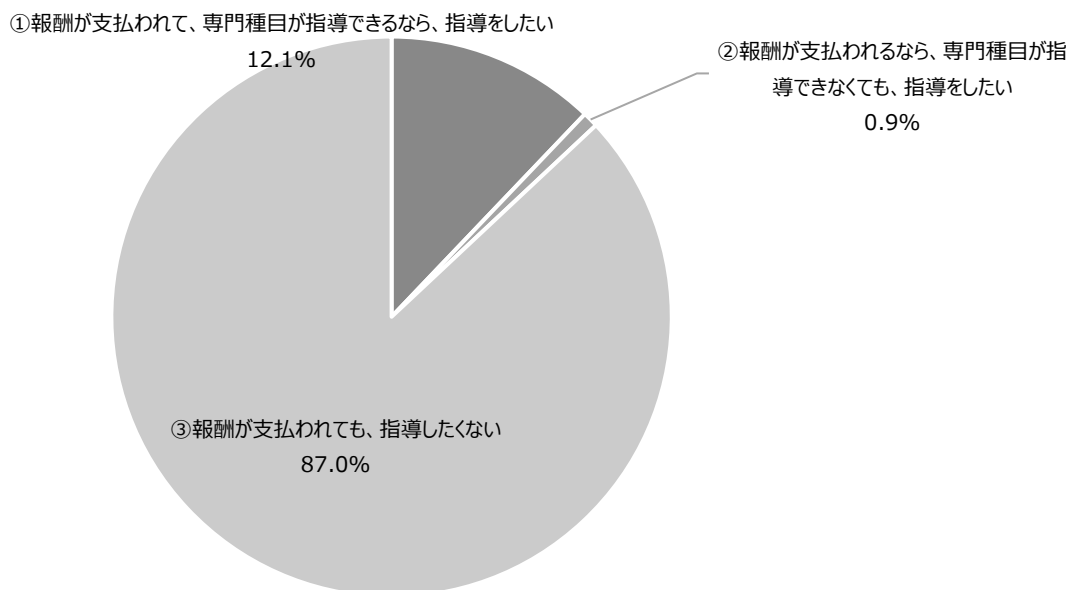
報酬が支払われるなら、地域移行後も指導したいと思うかについては、中学校では約4割の教員が「指導をしたい」、小学校では約1割の教員が「指導をしたい」と回答した。

(中学校)



	中・教員	割合
①報酬が支払われて、専門種目が指導できるなら、指導をしたい	322	35.3%
②報酬が支払われるなら、専門種目が指導できなくても、指導をしたい	24	2.6%
③報酬が支払われても、指導したくない	566	62.1%
計	912	

(小学校)

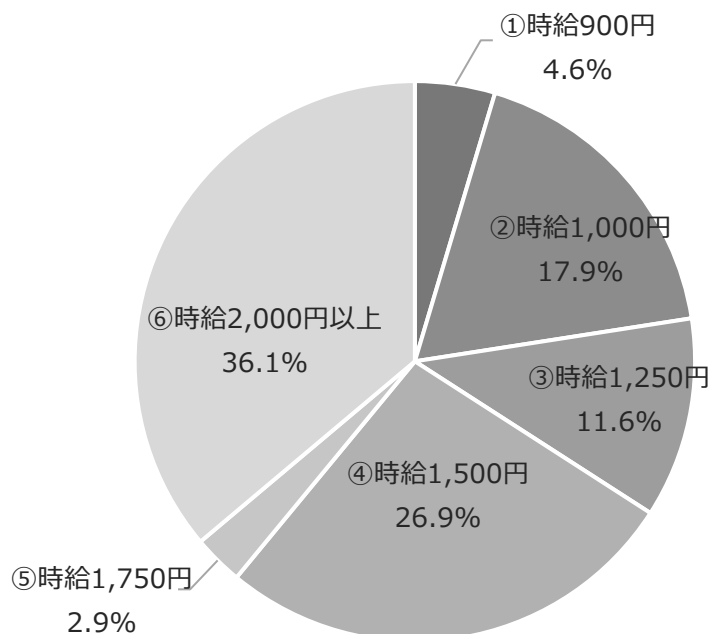


	小・教員	割合
①報酬が支払われて、専門種目が指導できるなら、指導をしたい	190	12.1%
②報酬が支払われるなら、専門種目が指導できなくても、指導をしたい	14	0.9%
③報酬が支払われても、指導したくない	1,363	87.0%
計	1,567	

問48 部活動が地域移行して、平日も勤務時間外に従事した場合、報酬がいくら支給されれば指導してもよいと考えますか。

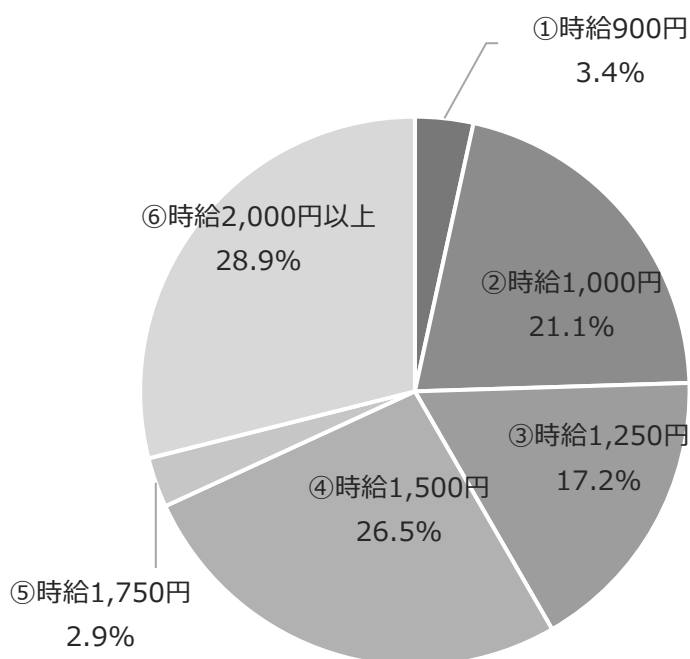
指導してもよいと考える報酬の額については、中学校、小学校ともに「時給2,000円以上」が最も多く、「時給1,500円」、「時給1,000円」が続いている。

(中学校)



	中・教員	割合
①時給900円	16	4.6%
②時給1,000円	62	17.9%
③時給1,250円	40	11.6%
④時給1,500円	93	26.9%
⑤時給1,750円	10	2.9%
⑥時給2,000円以上	125	36.1%
計	346	

(小学校)



	小・教員	割合
①時給900円	7	3.4%
②時給1,000円	43	21.1%
③時給1,250円	35	17.2%
④時給1,500円	54	26.5%
⑤時給1,750円	6	2.9%
⑥時給2,000円以上	59	28.9%
計	204	

問49 地域部活動の指導者となった場合、課題となりそうなことはありますか。
（例：勤務時間の取扱について、指導場所までの移動の服務について等）
（記述）

（中学校教員 346人 回答）

主な内容	件数	割合
①服務について（勤務時間、指導場所までの移動時間、土日・長期休業中など）	194	39.0%
②保護者等のクレーム対応や生徒指導面について	97	19.5%
③急な対応が入り、指導ができないときの対応や連絡・調整	50	10.0%
④責任の所在（事故やけが、報酬）について	38	7.6%
⑤学校業務（校務分掌）との兼ね合い、バランス、職場での理解について	35	7.0%
⑥指導者の確保（複数体制や異動に伴う変化）について	34	6.8%
⑦活動場所、文化系の楽器扱い	30	6.0%
⑧その他	20	4.0%
計	498	

※ 1人の記述の中に複数の内容が含まれる場合があるため、回答人数と件数は一致しない。

◎服務について（勤務時間、指導場所までの移動時間、土日・長期休業中など）
勤務時間の終了後に部活動指導員の資格となるのか。例えば勤務時間終了前から部活動が行われる場合は年休取得して指導を行うのか。勤務時間の上限はあるのか、夏休みなどの長期休暇での服務。
異なる地域（学校）の生徒を指導・引率する上での、学校行事等との兼ね合い。
公務員として指導するのか、民間人として指導するのか（兼職兼業）。交通費はどうなるのか。
自分がどういった経緯でどこの団体に指導者として振り分けられるのか。指導する団体に関してもそこに所属する学生や保護者の意見を取り入れてスムーズに指導へ入るような制度になるのか等の心配も考えられる。
◎保護者等のクレーム対応や生徒指導面について
たとえ遠くても指導の良い指導者のほうに集まる、もしくは指導者を別の地域と交代してもらえないかとの問い合わせがあった場合の対応、生徒指導や保護者対応など、どこまで介入すべきなのか境界線が曖昧になること、中学生を指導する上では、競技力だけでなく学校生活も含めた指導が必要である。その点で部活動指導者と学校との連携をどう図るのか。
今までは無償だったので保護者も自重していた面もあるかもしれないが、報酬を得ることで、保護者からの要求が激しくなる可能性があるのでは。お金を保護者から集める場合、権利意識が過剰になり過度な要求や結果を出すことへの欲求が高まり、保護者の要求をコントロールできないのではないかな。
部員の中で生徒指導のトラブルが起こった場合、日頃から生徒を見ていないため、生徒指導や信頼関係を作るまでに時間を要する、自校以外の生徒やその保護者の情報がわからないまま指導することになると、トラブルにつながりやすくなる。
緊急の対応（生徒指導など）が求められる場合、部活動と生徒指導の優先順位をどう決めるかが難しい。
指導を受ける子どもが、参加費を支払うので学校内でトラブルがあっても参加させるようになるのではないかな。
スポーツだけになって、心の指導をできる人がいない。スポーツを通して、人間力の向上を目指した際に難しくなりそうだと考えている。他校生徒の関わり方も含めて、ネット社会の子どもたち間の人間関係のこじれなど、全体を見ながら把握・指導できない可能性があるということ。
教員という、社会的には信頼度の高い集団が部活指導をしていた今までよりも、地域人材という実態の掴めない指導者の方が、体罰や暴言などのトラブルが起きるのではないかな。
モンスターペアレンツへの対応、保護者の指導者へのニーズが多様な場合の対応。現在の外部指導者との兼ね合い。また、誰が代表となるのかなど地域部活動なので、保護者と揉めることが考えられる。（保護者と連絡が密になる可能性。）

◎ 急な対応が入り、指導ができないときの対応や連絡・調整
急な練習時間の変更等の連絡がスムーズに行えるか。多数の学校の生徒を抱える場合は連絡等に手間がかかる。天候や指導場所確保に左右される。
勤務先で会議や保護者対応や生徒指導などのトラブルがあり、急遽、練習に行けなくなった場合または遅れて行くとなった時に練習がそのまま行っていくことができるのか。欠席の際の代わりの指導者。
◎ 責任の所在（事故やけが、報酬）について
生徒の安全確保の責任について、移動の際の交通事故や指導中のケガなどの補償が心配である。
練習計画の作成や登録や試合の申込み等など、運営に関する業務を誰が中心となって進めていくのか。競技で必要となる物品購入や用具やお金の管理、試合の申し込み、各種プリントの作成等が必要となる。
保護者会等組織関連、保護者、生徒が勝利至上主義になり、勝てる指導者のみが信頼される。お金を払う以上、それに見合った具体的な実績を残さねばならないという状況になる。
時給に関しては、習い事に相当する働きをするわけであるし、教員の人生を削るので高めに設定してほしい。
◎ 学校業務（校務分掌）との兼ね合い、バランス、職場での理解について
する先生としない先生で、差別的な発言がないか、地域部活動と校務のバランスが気になる。報酬を受けている以上、勤務終了後すぐに学校を離れることを他の職員が理解してくれるか？
部活動を主で担当している先生が、大きな校務分掌も担当する傾向にあるように感じている。部活動以外の部分での校務分掌の整理や配慮、理解も必要になってくるのでないか。
学校業務の縮小がなされないと今のままでは対応に追われ指導できない。
現状であれば、緊急に部活動を中止することもできるが、地域から集まる場合が難しい。地域移行で部活動自体の負担は減り、ボランティアにはならないが、その分他の先生の負担や対応は増幅するようにおもう。
◎ 指導者の確保（複数体制や異動に伴う変化）について
プロの指導者としての意識の差が大きくなると思う。複数指導者がいた場合に、どのように連携を図るのか。指導者同士のトラブルも発生すると思う。
1人なら荷が重すぎるので複数の指導者で担当したい。そもそも地域部活動の指導者が教員以外で足りるのか。
教員の異動によって指導場所やチームの所在がどうなるのか。異動後のチームはどうなるのか。（前任の学校と異動先の学校でのチームのありかた）、新たに指導者の追加などは可能なのか。また、指導者を辞める場合について（指導者の異動や体調面などの事情により）代わりの指導者の確保は大丈夫なのか。
◎ 活動場所、道具について
各学校から集まる場合の保護者間の連携、生徒の送迎。複数校の「拠点校」となれば、他校生徒の出入り等がある。吹奏楽部の大型の楽器を扱う場合や剣道の道具などの練習会場や保管場所、メンテナンス等はどうするのか。
活動場所の確保。場所を固定できるのか、各自でその都度手配が必要なのか。施設の利用時間や他の協議との利用時間の兼ね合いが課題になるかとは思ふ。
◎ その他
各学校の部活動振興会等の扱いはどうなるのか。現在の部活動の後援会費の積立の精算をどうするか。
全ての教員が何らかの部活動の指導ができる専門分野を持っていることが前提のように思える。運動部に入っていなかった先生、入っていても指導できるレベルではない先生には回答しにくい設問。
活動チーム編成の基準（近場の中学校で集まるのか、市内ならどのチームに行ってもいいのか）について。各競技、保護者等からいろいろ言われても、「こう書いてありますよね」と言える明確な細かい規定が必要。
管理職の理解と教員の意識変革が追いつくか。勤務地と居住地が離れている場合の時間的な負担（どちらの地域で指導をするのか）。それぞれの学校に部活動が多種類存在していることによる指導者不足。指導による報酬のための手続きの煩雑さが増えるのか。
子どもの運動したい生徒の場所への移動やお金の面で、運動を奪われることになるのではないかと思う。さらに、運動離れが出る。また、子供たちが興味のある競技がその場所にあるか。
現在、各種目の大会は教員が運営しているが、大会運営は誰が行うのか。大会運営では、事前の会場設営や数日間朝早くから夕方まで運営を行うがそれに対しても賃金が発生するのか。
部員数は減少傾向にあるため、部の存続が難しくなる競技も出てくること。部員数減少による部の廃止や部を新設するなどの基準について。

(小学校教員 192人 回答)

主な内容	件数	割合
①服務について（勤務時間、指導場所までの移動時間、土日・長期休業中など）	100	45.9%
②学校業務（校務分掌）との兼ね合い、バランス、職場での理解について	27	12.4%
③保護者等のクレーム対応や生徒指導面について	23	10.6%
④責任の所在（事故やけが、報酬）について	18	8.3%
⑤急な対応が入り、指導ができないときの対応や連絡・調整	16	7.3%
⑥活動場所、文化系の楽器扱い	15	6.9%
⑦指導者の確保（複数体制や異動に伴う変化）について	12	5.5%
⑧その他	7	3.2%
計	218	

※ 1人の記述の中に複数の内容が含まれる場合があるため、回答人数と件数は一致しない。

◎服務について（勤務時間、指導場所までの移動時間、土日・長期休業中など）
小学生の場合、活動時間が遅くなると次の日に影響が出てくるので、4時ごろからの活動が良いと思う。そのため、指導者もその時間までに活動場所に行くために、勤務時間を考慮してほしい。
勤務地と指導場所の距離が遠い場合や交通渋滞などで指導開始時刻に間に合わないことがある。
チームを現時点で作っているが、移動などに時間がかかり、とても苦勞している。異動方針などでは地域の指導者としての考慮がなされる目処は立っておらず、今後も配慮がなされないのでは、と不安である。
土日の大会等の服務、移動の手当、交通費について。
特に外部活動だと冬は時間が無くなるので勤務時間の取り扱いが難しくなりそう。
◎学校業務（校務分掌）との兼ね合い、バランス、職場での理解について
ももとの人員不足、業務の多さへの対応ができず本来の校務に支障がでること。
校務分掌など、残業が他の先生に回ってくる可能性があること。
学級担任としての仕事と地域部活動の指導との両立ができるかどうか。
大会引率や行事等の重複があった場合の対応。
指導しようとする職員は「義務」ではなく、完全に「自分がやりたいのです」ということになる。勤務時間に移動をすることに関して、職員全体からの理解は非常に得にくいのではないかなと思う。
◎保護者等のクレーム対応や生徒指導面について
いろいろな学校が集まると自然とトラブルも増えるのではないかな。
保護者等の協力、部活動は生徒指導面でも効果の期待できる活動だと思うので、教員がすることは賛成。しかしそこに一部の教員にだけ負担がいくシステムが問題。負担に対する対価を正当に与えることと、保護者送迎中の事故や練習の怪我などで責任を問われることがないように、ある程度の教員を守ってくれる制度を確立してもらえればいいと思う。
勤務地と違う学校で指導する場合の生徒指導面で子どもへの関わり方が難しい。
生徒間トラブルで部活が絡んだ際の連携、保護者との関係づくりや子どもの実態把握と指導、クレームへの対応。
◎責任の所在（事故やけが、報酬）について
指導場所が異なる場合、勤務終了と部活開始の間の時間の児童生徒の管理責任は誰が負うのか？ケガや事故に対する補償、保険や連盟等への所属の課題(大会の参加地区なども関係するので、大会運営にも関わる。)
活動における指導者の身分の保証について。
報酬があるとすると、さらに結果が強く求められるのではないかな。
指導のみに携わることでいいのか。(運営面への関わりの有無、会計等の管理)
◎急な対応が入り、指導ができないときの対応や連絡・調整
急に練習計画が変更になる場合の連絡方法、急に学校で何かあった時など、部活と違い融通がきかない。
突発的な残業、学校が忙しい時期でも指導内容、量は変わらないため、急に行けなくなったときのフォロー。
学校における緊急対応等、校務の時間外対応の必要が生じた場合など、当日の（部活動）代替指導者の問題等。

◎活動場所、文化系の楽器扱い
活動場所の継続、安定した確保、体育館等練習場所の確保、学校も土日に総合型スポーツや先立って立ち上がった社会体育等による団体と施設利用が重なるなどが理由。地域部活動もだんだん学校による協力が得られにくくなるのではないかな。
練習場所、使用楽器の確保、適切な保管場所が難しい。、地域になった場合、音楽などは学校の教室、楽器を使用する必要があるので施設管理の問題が多い。
◎指導者の確保（複数体制や異動に伴う変化）について
もし都合でやめる場合はやめられるのか。、自分のあとに指導する人が見つかるのか。
異動した場合、どこまでそのクラブに関わっていけるか、複数体制で指導しないと、休みが取りにくく、指導者になる人が集まらない。
指導者の指導方針等、現行体制との調和について。
◎その他
勝利至上主義に陥る不安。部活動の基本精神である運動を親しむ子供を育てることからズレていきそう。
活動に参加しない子への指導。
学校の子ども達に学びが還元出来る事が第一と考える。音楽部の場合は、学校の行事や集会などのお盛り上げ役、お昼休みなどコンサートなどを催し潤いを与えられる役など学校と地域の垣根が無いようにしたい。
複数の学校の生徒が集まった場合の大会の参加のあり方(特に中体連)。
現段階で、小学生のクラブチームを指導しているが、小中一貫で指導できる体制をつくっていきたい。
指導種目の指導者としての研修の取扱い。
部活動において問題が発生したとき誰に相談したらよいのかなど。